

— 提 言 —

質の高い学力を求めて



平成20年1月

京の学力向上検討委員会

【表紙図案の意図】

様々な要素が、相互に関連し合いながら、一体となって学力が高まっていく様子を表している。

目 次

I	はじめに	1
II	質の高い学力を求めて	2
III	京都府における調査結果の概要	3
IV	提言—これからの取組のポイント—	5
V	京都府における国語の状況と改善のポイント	
1	小学校国語の概要	11
2	中学校国語の概要	13
3	国語の授業改善に向けて	15
4	国語の授業改善の提言	16
5	言葉の働きに着目した指導の一層の充実	23
VI	京都府における算数・数学の状況と改善のポイント	
1	小学校算数の概要	25
2	中学校数学の概要	27
3	算数・数学の授業改善に向けて	29
4	算数・数学の授業改善の提言	30
5	算数・数学学習への意欲を一層高めていくこと	37
VII	児童・生徒の学習環境・生活習慣	
1	質問紙から見える課題と改善の方策	39
2	資料の見方	40
3	質問紙調査の結果	
(1)	学習に対する関心・意欲・態度	41
(2)	学習習慣	42
(3)	基本的な生活習慣	43
(4)	家庭でのコミュニケーション	44
(5)	自尊意識	45
(6)	運動・スポーツとの関連	46
※	京の学力向上検討委員会の開催経過	47
※	京の学力向上検討委員会名簿	49

昨年4月、「全国学力・学習状況調査」が、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象に実施されました。この調査の目的は、①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、②各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ることにあります。

京都府内では、全ての小・中学校及び特別支援学校が本調査に参加し、10月には各教育委員会及び学校が調査結果の返却を受けたところです。また、京都府教育委員会においては、文部科学省から調査結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた研究事業の委託を受けて、8月に「京の学力向上検討委員会」を立ち上げました。

「京の学力向上検討委員会」においては、府内の教育研究・教員養成系大学教員、小・中学校及びPTA関係者の参画を得て、文部科学省から提供を受けた調査結果のデータを様々な角度から分析し、各学校や教育委員会における教育と教育施策の成果と課題を検証するとともに、一層効果的な取組に向けての提言を行うための作業を進めてきました。

それぞれの学校や教育委員会におかれても、調査結果に基づく分析や検証が進められているところですが、その参考に供するため、このたび本委員会の事業として『質の高い学力を求めて』を発行することとしました。本資料には、京都府における調査対象教科の結果概要及び改善のための視点や提言、また、学習環境や生活習慣に関する調査結果を踏まえた分析や提言などが掲載されています。

それぞれの学校や教育委員会におかれては、本資料に示す京都府の状況と自らの地域や学校の実態とを比較検討するとともに、本資料で示した改善の視点からも検討を加えられ、改善のための手立てを一層確固たるものとして取組や実践が進められることを願ってやみません。

本委員会では、引き続き分析と検証を進め、年度末までにはその結果を「指導資料」として発刊するとともに、その資料に基づく「フォーラム」も開催するなど、各学校や教育委員会の取組のお役に立てればと考えております。

結びに、本資料発刊に際し、専門的な立場から終始熱心に御指導をいただきました関係各位に衷心より厚く御礼申し上げます。

平成20年1月

第二次世界大戦後の教育改革は、学力問題を中心として推移してきました。1950年代を前後する頃の「学力低下問題」、1975年代中頃の「受験学力問題」は、その代表的なものです。そして、これらの学力問題を契機として、学習指導要領の性格が大きく転換しました。このように振り返ってみると、今日の学力問題は戦後四半世紀ぶりに訪れた大きな改革の波と言えるでしょう。

周知のように、今日の学力問題は、「大学生の学力が崩壊している」という衝撃的な報道から幕を開け、その「学力低下」に関する議論の矛先は、「ゆとり」政策に向けられていきました。教育現場では、いわゆる「基礎学力」を重視する「ドリル学習」が取り込まれ、文部科学省も「学びのすすめ」（2002年1月）というアピールを出すことになりました。

しかしながら、今日の学力問題はさらに新たな展開を遂げています。その大きな引き金になったのは、学力の国際調査とりわけPISA調査が与えた影響です。実のところ、OECDが実施するPISA調査の結果は、今や世界各国の教育政策を揺さぶるほどになっています。PISA調査は、「リテラシー」つまり学力における「応用力や総合力」を測ろうとするものです。最近発表されたPISA2006の調査結果によれば、日本の生徒は、国際順位からみて科学、数学がやや低下、読解力は低迷しているということを伝えていません。文部科学省では、2005年12月に「読解力向上に関するプログラム」の策定と『読解力向上に関する指導資料』を作成しています。

このような特徴を持つ今日の学力問題をまとめてみると、いわゆる「基礎学力」を重視するとともに、発展的な学力も同時に形成すべきことを求めているといえるでしょう。しかも、PISA調査で好成績を挙げているフィンランドが示しているように、学力格差を克服して、すべての児童・生徒に質の高い学力を保障することが何よりも大切な視点となっています。中央教育審議会教育課程部会の「審議のまとめ」（2007年11月7日）で強調されている「確かな学力」の保障とその要素としての「習得」と「活用」とは、まさしくこのような今日の学力問題の経過を反映したものなのです。

そして、このたび実施された「全国学力・学習状況調査」では、A問題（「知識」に関する問題—基礎的・基本的な内容）とB問題（「活用」に関する問題—実生活を想定した場面で知識を活用して答えを出す内容）が区別されて出題され、質の高い学力の保障を目指す取組が本格的に行われようとしています。その際、とりわけ二つの点に留意しておきたいと思います。その一つは、「活用」のためには「知識」や「習得」の裏付けがなくてはならないという点です。この「裏付け」とは、「知識」を詰め込むことではなく、「知識」の意味内容を豊かに「習得」することなのです。もう一つ留意したい点は、「活用」という発展的な学力を形成するためには、「学び直し（知の洗練化）」や「まとめ直し（知の総合化）」といった指導をていねいに組み立てる必要があります。単にB問題のような問題形式に慣れさせるような試験対策では、本物の「活用」する学力は形成されません。

ここに上梓された冊子は、質の高い学力を保障する取組やそのような学力形成を支える家庭・地域の取組に示唆を与えるものになっています。大いに参考にさせていただければと存じます。

Ⅲ 京都府における調査結果の概要

1 調査の概要

- (1) 実施日 平成19年4月24日 (火)
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 実施教科 ①教科に関する調査 (国語、算数・数学)
 ・主として「知識」に関する調査 (A問題)
 ・主として「活用」に関する調査 (B問題)
 ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 ・児童生徒に対する調査
 ・学校に対する調査
- (4) 実施学校・参加児童生徒数 (4/24実施分)

小学校	対象学校数	学校数(実施率)	児童数
全国公立学校	21,939校	21,889校(99.8%)	1,125,585人
京都府公立学校	427校	426校(99.8%)	21,490人

中学校	対象学校数	学校数(実施率)	児童数
全国公立学校	10,250校	10,050校(98.0%)	1,023,516人
京都府公立学校	177校	172校(97.2%)	18,300人

※ 参加児童生徒数は、教科ごと等により異なるため、最大値で示す。

2 教科に関する調査の実施結果

(1) 平均正答率の状況

	小学校第6学年				中学校第3学年			
	国語		算数		国語		数学	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
全国	81.7	62.0	82.1	63.6	81.6	72.0	71.9	60.6
京都府	82.8	64.0	85.3	66.4	81.4	72.0	72.8	61.2

(数値は平均正答率、全国は公立学校の平均)

(2) 概況

今回のテストで測定できる学力は、特定の一部ではあるが、結果を平均正答率や正答数分布などで見ると、京都府内の児童生徒の学力は、おおむね全国水準を超えている。

<校種・教科別>

- 小学校においては、すべての教科や問題種別で全国水準を超えている。
- 中学校においては、数学では全国水準を上回り、国語でもほぼ全国水準を維持している。

<問題種別>

- 「知識」に関する問題に対応する力については、おおむね身に付けているが、「活用」に関する問題に対応する力については、更に身に付けさせる必要がある。これらの問題種別に見られる傾向は、国全体の結果と同様である。

3 質問紙調査の実施結果

本府の状況を全国と比較すると、大部分の質問項目において全国の状況と同様の傾向が見られる。しかし、細部を比較すると本府の特性が現れている項目もあり、他の項目との相関も含め詳細に見る必要がある。

- 児童生徒質問紙調査においては、おおむね各項目とも全国と同様の傾向が見られるが、「家庭でのコミュニケーションや朝食を食べること」など課題が残る項目がある。
- 学校質問紙調査においては、「学力向上に向けた取組」や「一斉読書」などについて、全国と比べて良好な結果が見られる。
- 「物事を最後までやり遂げて嬉しかった経験の有無」など、学力と強い相関が見られる項目がある。

4 その他

本資料に掲載したデータは、京都府内すべて（京都市域を含む）の受検児童生徒の結果であり、分析もこのデータを基に行っている。

なお、当日実施できなかった学校は後日実施したが、データには算入されていない。

Ⅳ 提言—これからの取組のポイント—

本資料では、後の章において、京都府における全国学力・学習状況調査の分析と、それに基づく改善に向けての提言等を示しているが、まずここでは、学校、教育委員会、家庭や地域におけるこれからの取組のポイントについて提言したい。

1 学力について

中央教育審議会においては、学力の重要な要素を次の3点としてとらえている。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 学習意欲

これらの要素が統合された学力は、質の高い学力とすることができるであろう。今後学校は、これらの要素相互の関係性を意識し、全体を一体のものとして高めていくよう、授業改善や家庭・地域社会と連携した取組を推進することが重要である。

※ 平成20年1月に公表された、中央教育審議会答申の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においては、改正教育基本法や、これを踏まえて改正（平成19年6月公布）された学校教育法第30条第2項等の規定をめぐって次のように述べられている。

「これらの規定は、その定義が常に議論されてきた学力の重要な要素は、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲、であることを明確に示すものである。」

この度実施された全国学力・学習状況調査は、「知識」に関するA問題と、「活用」に関するB問題を区別して出題し、併せて質問紙調査を行ったところであり、中央教育審議会の学力のとらえ方と調査の内容は良く符合している。

2 京都府の児童生徒の課題

- ① 「知識」に関する問題に対応する力はおおむね身に付けているが、「活用」に関する問題に対応する力については、更に身に付けさせる必要がある。この点は、全国的傾向と同様である。
- ② 学習環境や生活習慣については、「学習意欲」、「自尊意識」、「食習慣」、「家庭でのコミュニケーション」など、学力との相関が高い項目において、全国状況に比べてやや不十分な点が見られる。

3 取組の重点

- 引き続き基礎学力を重視しつつ、特に、知識・技能を活用して課題を解決するため

に必要な思考力・判断力・表現力等を伸ばすことに努める。

- ▷ 「活用」する学力を形成するためには、「知識」や「習得」の裏付けが必要。その際、単なる知識の詰め込みではなく「知識」の意味内容を豊かに「習得」するようにすることが重要である。また、「学び直し（知の洗練化）」や「まとめ直し（知の総合化）」といった指導を丁寧に組み立てるべきである。単にB問題のような問題形式に慣れさせるような試験対策では真の意味での「活用」する学力は形成されない。

○ 目的意識や学ぶ意欲を培い学習習慣を確立するため、学校と家庭や地域社会が連携した取組を推進する。

- ▷ 質の高い学力には、質の高い学びが不可欠であり、目的意識や学習意欲に裏付けられた学習習慣を児童生徒の発達段階に応じてしっかり身に付けさせることが肝要である。そのために学校では、学習意欲を高める授業の工夫に努め、これと連動させて、家庭での学習・生活習慣の改善が進むよう、家庭や地域社会と連携した取組を更に推進することが必要である。

4 学校の取組

○ 継続的に広い視野で取り組む。

- ・ 学力・学習状況の課題に真正面から向き合い、単なる学力調査対応ではなく、中長期の視野で継続的に取り組むことが必要である。
- ・ 義務教育9年間を見通した学びの連続性や教科間の関連を確認するなど、広い視野で取り組むことが必要である。

○ 調査結果を十分に分析し、自校の教育を検証して改善に取り組む。

- ・ 小中学校の教員が、小学校中学校双方の調査問題を実際に解いてみることを出発点として、校内研修を活用して問題の分析を行い、問題内容や出題意図への理解を深めるなど、学校を挙げた授業改善に取り組むための共通基盤を形成する。
- ・ A問題・B問題別の平均正答数、平均正答率、中央値等の数値による分析の他、児童生徒の正答数の分布の形状等から全体的な状況を把握したり、領域別、観点別、問題（解答）形式別に誤答や無解答の状況を分析したりするなど、それぞれの状況に即し、多面的な分析を行い、自校の教育の成果と課題を検証する。
- ・ 学校単位の分析に基づき、京都式少人数教育の実施方法にも関連付けながら、カリキュラムや新たな評価方法の開発に取り組む。
- ・ 学級単位で、教材分析を踏まえた指導内容や指導方法の改善、評価方法の在り方、個別の児童生徒への対応などへの考察を深め実践する。
- ・ 質問紙調査については、全国や府の結果との比較や、学力との相関、調査項目相互の相関について、文部科学省や本資料が示した手法を参考にして、多面的に分析し、校内での取組や家庭や地域社会と連携した取組を推進する。

- ・ 府総合教育センターをはじめとする研修・研究機関や教育研究団体等の有する機能や研究成果を活用する能力を高め、校内研修、研究活動、授業改善等を充実させる。

○ 全国学力・学習状況調査に係る検証改善サイクルを確立する。

- ・ 全国学力・学習状況調査に係る検証改善サイクルを、自校の学力向上プログラム（システム）の中に位置付けるなど、既存の取組との関連性を持たせて確立する。また、学校評価のプロセスで作成する学校経営計画にも適切に位置付けることが重要である。
- ・ 一つの単元レベルでの授業改善をサイクル化した取組を一層推進する。
- ・ 教職員一人一人の目標が、学校経営計画の目標と一致することによってこそ学校の組織的一体性が生まれ、学校経営は効果的に改善していく。教職員評価における「自己目標」の中に、学力の充実・向上に関連した目標が設定されることが重要である。

※一つの単元レベルでの授業改善サイクルのイメージ

- ①教材分析、②指導内容の明確化、③授業構想と指導と評価の計画、
- ④テスト（測定内容・方法）の作成、⑤ 授業展開、⑥児童生徒の自己評価、⑦テストの実施、
- ⑧テストの結果の分析と①～⑤の検証、⑨次なる改善

5 教育委員会の取組

京都府教育委員会では、市町村（組合）教育委員会や小中学校に対する総合的な支援策を、これまで以上に積極的に具体化することが必要であり、市町村（組合）教育委員会は、設置する学校共通の課題と個別の課題を明らかにしながら、学校の支援方策を検討することが必要である。

また、京都府教育委員会と市町村（組合）教育委員会が連携し、各教育局が所管する地方単位での広域的な取組を行う視点も重要である。

<教育委員会による学校支援>

- ・ 全国学力・学習状況調査、京都府の（基礎）学力診断テストの分析結果の周知を図ること。
- ・ 分析ツールの開発や分析のノウハウに関する資料の作成など各学校での分析の支援を行うこと。
- ・ 学校評価を軸にした学校経営改善や教職員の資質向上の取組を支援すること。
- ・ 指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、実践交流会、フォーラム等を開催すること。
- ・ 本提言に示す質の高い学力を求めて、カリキュラムや評価方法などの研究開

発を進め学校に普及すること。

- ・ 研究指定事業の在り方を見直し、学力の要素の個別又は全体の充実・向上に対応する研究を継続的に支援すること。
- ・ 府総合教育センターにおける研修講座、調査・研究活動、カリキュラムセンター等の充実を図ること。
- ・ 学力の充実・向上を目指す校内研修等に対して、府総合教育センターによる講座の出前や講師の派遣を推進すること。
- ・ 教科別の指導方法の工夫改善に係る実践事例や、評価方法の開発事例などを収録した資料を作成し普及すること。
- ・ 京都式少人数教育の充実など、指導方法や指導体制の充実を支援すること。

6 地域社会総がかりの取組へ

○ 学校と家庭や地域社会が連携した取組の推進

全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査とともに学習環境や生活習慣に関する質問紙調査が行われた。児童生徒の学力を向上させることは学校の責務とはいえ、目的意識や学ぶ意欲を培い学習習慣を確立することは、家庭での学習や地域社会での生活の在り方に大きくかかわっている。

したがって、学校と家庭や地域社会の連携を深め、地域社会総がかりの取組で子どもたちを育成していくことが大変重要である。

- ・ 学力向上についての自校の方針や具体的なプラン、実施結果などを家庭や地域社会に示し、それらに対する学校外部の声（評価）に耳を傾けることが求められる。このプロセスは、学校評価における学校関係者評価（外部評価）に適切に位置付けて取り組むこと。
- ・ 家庭教育の充実、地域の人材育成、地域づくり等の観点に立って、児童生徒の学力の充実・向上について、学校外部の方々との協議する機会を設けること。
- ・ 「まなびアドバイザー」、「京のまなび教室」、「親のための応援塾」などの事業を通じて、保護者や子どもたちの多様な状況やニーズを踏まえながら、学校と家庭、地域社会が連携した取組を一層推進すること。

○ 家庭への啓発と支援の推進

今回行われた質問紙調査の結果では、京都府の児童生徒の「食習慣」や「家族とのコミュニケーション」などの状況は、全国と比較してやや課題があると言える。これらの項目は、健康や体力、豊かな人間性の育成に関連することはもちろんであるが、いずれも学力と高い相関が見られることから、それらの状況の改善を図ることは、子どもたちの学力を向上させる上でも大変重要である。

これらの点は家庭生活そのものの要素であるので、それぞれの家庭において改めて実態を見直したり改善への意識が高められたりするよう、学校、PTA、地域団体、関係行政機関が連携し、啓発・支援することが強く望まれる。

【参考】

京都府が実施してきた主な学力充実・向上施策

<p>京都府独自の調査と分析</p>	<p>京都府学力診断テスト 小学4年(③～)・6年(③～⑱)、中学2年(⑮～) 京都府教育委員会……学力向上対策会議 京都府総合教育センター……学力充実講座等 市町村(組合)教育委員会……各校の分析・取組等の交流 各学校……校内研修等で分析</p> <p style="text-align: right;">} 結果分析・課題把握 } 指導改善</p>	
<p>指導課題の洗い出しと施策</p>	<p style="text-align: center;">個人ごとの分析への対応</p> <p>個に応じた指導(京都式少人数教育)</p>	<p style="text-align: center;">全体状況の分析への対応</p> <p>指導課題の解決(「京の子ども、夢・未来校」等)</p>
<p>情報交換・成果普及の場</p>	<p>指導方法の改善に関する研究協議会(少人数授業等の取組)</p> <p style="text-align: center;">教育局別「学力向上対策会議」</p> <p style="text-align: right;">教育課程京都府研究大会 (小学校北部・南部、中学校)</p>	
<p>その他の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語力向上の取組………京の国語力向上プロジェクト、みんなで読もう! 1000万冊読書キャンペーン、声に出して読もうin京都 ・学習・生活習慣等の改善……生活・学習習慣に関するアンケート調査 まなびアドバイザー、京のまなび教室 親のための応援塾 	

京都府における国語の状況 と改善のポイント

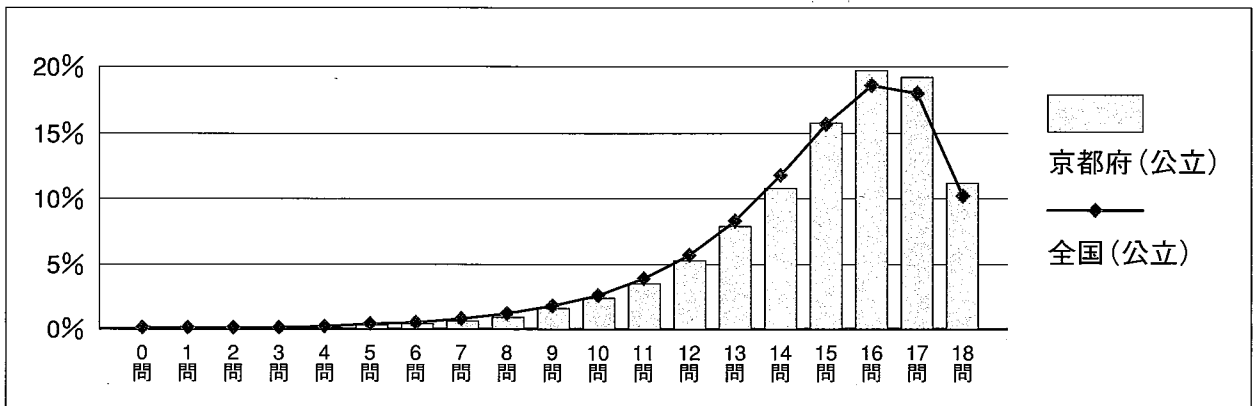
V 京都府における国語の状況と改善のポイント

1 小学校国語の概要

- 国語A（知識）については、児童の平均正答率が82.8%であり、全国（公立）81.7%を上回っており、今回出題されている学習内容をおおむね理解していると考えられる。
- 国語B（活用）については、児童の平均正答率が64.0%であり、全国（公立）62.0%を上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

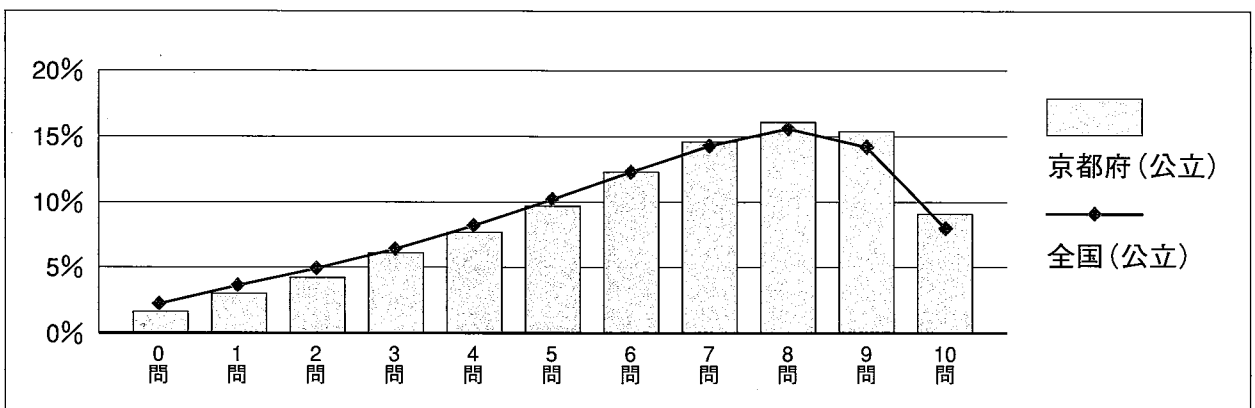
○国語A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	21,490	14.9/18	82.8	16.0	2.6
全国	1,125,575	14.7/18	81.7	15.0	2.8



○国語B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	21,486	6.4/10	64.0	7.0	2.5
全国	1,125,422	6.2/10	62.0	7.0	2.6



○課題等

話すこと・聞くこと

- ◆(A) 話し方に関する知識（聞き手の反応を確かめながら話すこと）や聞き方に関する知識（要点をメモに取りながら聞くこと）の理解に課題がある。 【A7、A6】
- ◇(B) 計画的に話し合うために必要な司会者の役割や働きについては、相当数の児童が理解している。 【B1二】

書くこと

- ◇(A,B) 文章の中から必要な言葉を選んで内容を整理すること、体験等に基づいて自分の考えを書くことは、相当数の児童ができている。 【A8、B2三(2)】
- ◆(B) 説明文で述べている事柄の理由を要約すること、資料から必要な事柄を取り出して与えられた条件に即して書き換えることに課題がある。 【B2二、B2三(1)】

読むこと

- ◇(A) 説明文の一部の段落を読み、書かれている内容をとらえることは、相当数の児童ができている。 【A9】
- ◆(A) 登場人物の関係を押さえて心情を把握することに課題がある。 【A10】
- ◆(B) 文章の内容と資料の情報とを関係付けて正しく読み取ること、自分の考えをまとめるために、文章の必要な部分を要約することに課題がある。 【B2一・二】
- ◆(B) 二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめることに課題がある。 【B3一(1)(2)】

言語事項

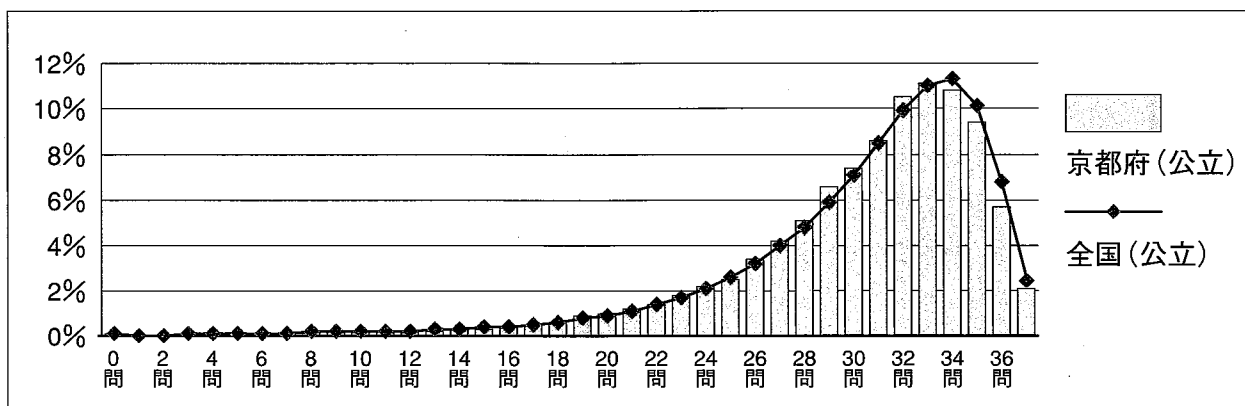
- ◇(A) 接続語の使い方、指示語が示す内容については、相当数の児童が理解している。 【A2、A3】
- ◆(A) 文の構成（文の中での主語と述語との関係、修飾や被修飾の関係等）を理解して、1文を2文に書き換えることに課題がある。 【A5】

2 中学校国語の概要

- 国語A（知識）については、生徒の平均正答率は81.4%であり、全国（公立）の平均正答率81.6%とほぼ同程度で、相当数の生徒が今回出題されている学習内容をおおむね理解していると考えられる。
- 国語B（活用）については、生徒の平均正答率は72.0%であり、全国（公立）平均正答率72.0%と同じであるが、知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

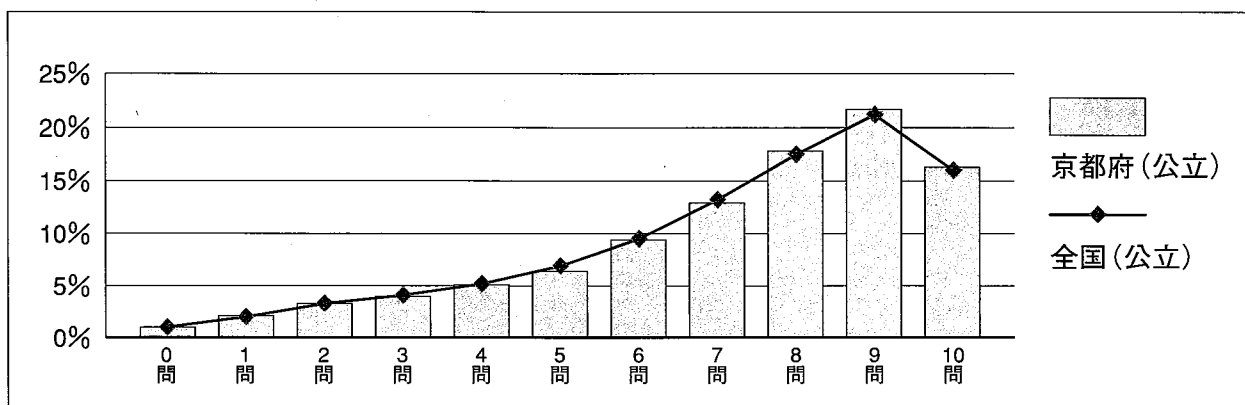
○国語A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,212	30.1/37	81.4	32.0	5.4
全 国	1,022,518	30.2/37	81.6	32.0	5.5



○国語B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,248	7.2/10	72.0	8.0	2.5
全 国	1,023,009	7.2/10	72.0	8.0	2.4



○課題等

話すこと・聞くこと

- ◇(A) 聞き手を意識して使用する語句を工夫することや、不足している情報を適切な表現で話し手に確かめることは、相当数の生徒ができています。
【A1一、A5二】

書くこと

- ◇(A,B) グラフから必要な情報を読み取って記述すること、文学作品の内容や構成について自分の考えを書くことについては、相当数の生徒ができています。
【A7一、B2三】
- ◆(A) 手紙の後付けの書き方についての理解に課題がある。 【A2三】
- ◆(B) 複数の資料から得た情報（資料に表れているものの見方や考え方）を整理して、伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことに課題がある。
【B3三】

読むこと

- ◆(A) 情景描写（比喩等の表現技法）を書き手の工夫に着目して的確に読み取ることに課題がある。 【A3二】
- ◇(B) 文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることは、相当数の生徒ができています。 【B2一】
- ◆(B) 文章の展開や心情の変化に着目して、工夫しながら朗読することに課題がある。 【B2二アイ】

言語事項

- ◇(A) 語句の意味を理解して文脈の中で正しく使うこと、文の成分の照応に注意して書くこと、生活の場面で敬語を適切に使うことは、相当数の生徒ができています。
【A8三、A8七、A8八】
- ◆(A) 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。
【A8二2、A8一1・2・3】

3 国語の授業改善に向けて

国語への学習意欲を 育てる指導

- ・思考力や判断力、表現力等は、これからの時代に求められ、必要とされている力である。活用に関する問題においては、これらの力が問われたが、京都府においては、この問題解決に課題が見られた。このような力を身に付けていくためには、国語科の基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図るとともに、学んだ知識や技能等を活用する学習活動を充実させることが大切である。そのためには、国語科はもちろん他教科等とも相互に関連させて力を伸ばしていくことが肝要である。
- ・今回の調査で「国語の勉強が好きだ」と答えた児童生徒は6割に満たなかった。国語科が言語能力の育成を図る中心的な役割を担っていることに鑑みると、児童生徒の国語を学ぶ意欲を育てる授業を創造するための取組がまず必要である。
- ・学習意欲を育てるためには、学ぶことの意義や有用性を感じる場の設定をすることが大切である。そのためにも、身に付けさせたい力を明確にした指導は、益々重要になってくる。

言語の教育としての 立場を明確にした指 導

- ・国語科の中心的な目標は、「自分の考えを持ち、論理的に意見を述べたり適切に表現し的確に読み取ったりする言語の力を身に付けること」である。目標に達するためには「どの学年の」「どの単元で」「どのような指導内容を」「どれくらいの時間をかけて」指導するのかが明確にし、常に言語の能力を育成する指導を目指すことが大切である。これが今後一層の重視が求められる「言語の教育としての立場」である。
- ・調査結果から明らかになった課題は、学習指導要領のねらいとしてきたところと相通じる方向を示しているので、学習指導要領の目標を徹底することが、今回の調査で明らかになった課題を解決することにもつながる。特に、身に付けさせたい力を明確にして、発達段階に応じて系統的・段階的に、また、必要なことは重点的に繰り返し指導することが重要である。

基礎・基本の習得か ら活用への道筋をは っきりさせた指導

- ・国語科で身に付けた知識・技能を活用するには、様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を設定し、言語活動を一層充実させることが大切である。そのためには、学習指導要領に示されている言語活動例を効果的に活用し、国語科でまず、基礎・基本の習得から活用への道筋をはっきりさせた指導の在り方を確立させることが求められる。
- ・国語科以外の各教科等における様々な言語活動を充実させることは、児童生徒の言語能力を高める上で非常に重要である。その際、指導者は、国語で身に付けた言語の知識・技能を教科等の学習と関連付け、学習や生活に生かしていこうとする意識を常に明確に持つことが求められる。

4 国語の授業改善の提言

国語科における結果を問題ごとに分析し、児童生徒の課題を領域別に明らかにした。分析をする際には、(基礎)学力診断テストのこれまでの結果との関連も考慮に入れて示している。

明らかになった課題の、改善を図る視点の一例を領域ごとに示しているので、各学校における児童生徒の学力実態と比較検討することにより、それぞれの実態に応じた授業改善を図る参考としていただきたい。

資料の見方

国語科

- 言語の教育としての立場を重視すること。
- 日常生活・他教科等の学習に必要な「話す・聞く」「書く」「読む」などの基礎的な内容を繰り返し学習させ、確実に言語能力を育成すること。
- 基礎的・基本的な内容を系統的に身に付けさせることを重視すること。

改善のキーワード

「言葉の働きに着目した指導」の一層の充実を!

全国学力調査結果分析

各学校での今後の取組・授業改善の一例

話すこと・聞くこと

- 成果** (相当数の児童生徒ができています)
- ◇ 司会者の役割や働きを理解し、計画的に話し合う。(主に小学校)
 - ◇ 聞き手を意識して使用する語句を工夫したり、不足している情報を適切な表現で話し手に確かめたりする。(主に中学校)
- 課題** (指導を一層充実させることが求められる点)
- ◆ 聞き手の反応や表情を確かめながら話したり、話の要点を押さえて大事なことを聞き取ったりする。(主に小学校)
 - ◆ 適切な情報を収集・活用し、根拠を明確にした説得力のある表現をする。(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!

重点課題 話の要点を聞き取る

例えば、このような授業改善を!!

① 聞き手への配慮
② 要点を簡潔に
③ 書体の強調等の工夫

聞き手の反応や表情を確かめながら話したり、話の要点を押さえて大事なことを聞き取ったりする。(主に小学校)

適切な情報を収集・活用し、根拠を明確にした説得力のある表現をする。(主に中学校)

話し手の意図
全体と部分、事実と意見の関係

大事なこと
話の中心
話し手の意図
全体と部分、事実と意見の関係

論理的な構成や展開
説得力のある表現

【中学校2・3年】

【小学校1・2年】 【小学校3・4年】 【小学校5・6年】 【中学校1年】

- 全国学力調査結果から見られる成果と課題のうち特徴的なものを2つずつ示している。
- ◇ その領域における成果
- ◆ その領域における課題

- 「例えば、課題を克服するためにどのような指導をすることが大切か」など取組の一例を示している。

- 上記の取組の一例は、該当学年だけの指導内容ではなく、系統的なつながりを持っている。どのような系統性を持った指導内容なのか、キーワードで示している。

話すこと・聞くこと

成果 (相当数の児童生徒ができている点)

- ◇ 司会者の役割や働きを理解し、計画的に話し合う。(主に小学校)
- ◇ 聞き手を意識して使用する語句を工夫したり、不足している情報を適切な表現で話し手に確かめたりする。(主に中学校)

課題 (指導を一層充実させることが求められる点)

- ◆ 聞き手の反応や表情を確かめながら話したり、話の要点を押さえて大事なことを聞き取ったりする。(主に小学校)
- ◆ 適切な情報を収集・活用し、根拠を明確にした説得力のある表現をする。(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!



取組の一例

重点課題 話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る。

- 授業を変えるポイント!** メモの取り方のポイントを具体的に指導する。
- ①見出しを付ける
 - ②箇条書き
 - ③要点を簡潔に
 - ④構成を工夫
 - ⑤書体の強調等の工夫

インタビューのメモを取る

<高木さんのメモ>

- ケーキ屋さんになろうとしたきっかけ
 - ・ケーキを作っている様子にあこがれたから。
 - ・人を喜ばせたい。
- ケーキ屋さんになるために
 - ・おかし作りを覚えてくれる学校に通った。
- ケーキを作る喜び
 - ・思いえがいた味になったとき。
 - ・デザインどおりに作れたとき。
 - ・「おいしい」と言ってもらえたとき。
- 苦労していること
 - ・新しいケーキを考え出すこと。

メモを見て、分かりやすくする工夫についての説明として、ふさわしいものを2つ選ぶ設問。【小A6】

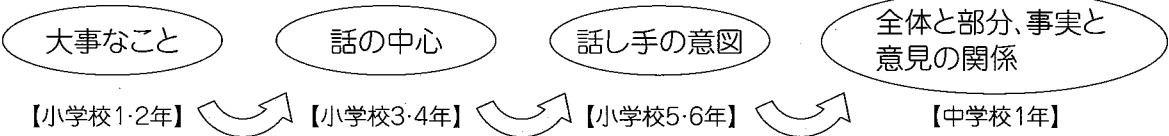
- 話の中心をどのようにメモに書いているのだろうか?
- メモの取り方で、良いところはどこだろうか?
- 主語と述語、接続語や文末表現にも気を付けて聞こう!

指導の系統性

- ☆各学年の発達段階に応じてポイントを指導!
- ☆自己評価や相互評価を取り入れた言語活動を!
- ☆他教科等との指導と関連付けて!

論理的な構成や展開
説得力のある表現

【中学校2・3年】



書くこと

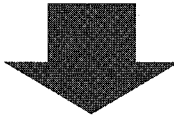
成果 (相当数の児童生徒ができている点)

- ◇ 文章から**必要な情報を選んで整理して書く。**
- ◇ 体験等に基づき、または文学作品の内容や構成について**自分の考えを書く。**

課題 (指導を一層充実させることが求められる点)

- ◆ 必要な事柄を取り出して**与えられた条件に即して書き換える。**(主に小学校)
- ◆ 伝えたい事柄や自分の考えを、**根拠を明確にして書く。**(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!



取組の一例

重点課題 複数の資料を比較し、自分の考えを明確に書く。

授業を変えるポイント! 文章から必要な情報を取り出すだけでなく、整理し、比べて読み、共通点や相違点に気付いて自分の考えを持つようにする。

複数の資料を比較しながら読む

「いろいろなお客様・・・」とあるが、誰を対象に書いているかな?

中学生のカードが対象としている相手分かる語句を取り出して、比べてみよう。共通点は何かな?

相違点が明確になるように、接続詞を工夫して、対比して書くことが必要だ。

【中B3三】

指導の系統性

- ☆「身に付けさせたい力」を明確に!
- ☆他の領域と関連させて!
- ☆必要に応じて繰り返し指導!

根拠を明らかに
論理の展開を工夫して

【中学校2・3年】

順序を考えて

中心を明確に

事象と意見を区別

自分の考えを明確に

【小学校1・2年】

【小学校3・4年】

【小学校5・6年】

【中学校1年】

読むこと

成果 (相当数の児童生徒ができています)

- ◇ 書かれている内容を的確にとらえる。(主に小学校)
- ◇ 文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取る。(主に中学校)

課題 (指導を一層充実させることが求められる点)

- ◆ 登場人物の関係を押さえて心情を把握したり、資料と関係付けたりして正しく読み取る。(主に小学校)
- ◆ 書き手の工夫(比喩等の表現技法)に着目して読み取る。(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!



取組の一例

重点課題 表現や叙述から登場人物の心情をとらえる。

授業を変えるポイント!

「どんな気持ちでしょう。」と問うより、「気持ちが分かる言葉や表現はどれでしょう。」と問うことから始める。

登場人物を把握する

【小A 10】

人物の気持ちが直接書かれているのはどこだろう?

まわりの人の言葉や行動から、どんなことが分かるだろう?

人物の気持ちと関係がある情景をさがそう!

指導の系統性

- ☆「身に付けさせたい力」を明確に!
- ☆各学年で確実に定着!
- ☆必要に応じて繰り返し指導!

表現や文章の特徴

【中学校2・3年】

場面の様子の想像

叙述に即した想像

心情の読み取り

主題の把握

【小学校1・2年】

【小学校3・4年】

【小学校5・6年】

【中学校1年】

国語

◆内容を把握し、自分の意見を持つことが求められる問題◆

書く力

- 目的や意図に応じて書く力
- ・書く事柄を整理して書く。
- ・根拠を明らかにして書く。

記述式の問題

- 文章や資料を正確に読む力
- ・自分の考えを明確にしながら読む。
- ・文章の構成や展開をとらえて読む。

読む力

新聞記事を書く<環境問題>

- ・「ごみを減らす取り組み」をテーマとして、自分でもできる取り組みを書く。【小B2三(2)】

小学校
B
(活用)

中学校
B
(活用)

文学作品を評価しながら読む<蜘蛛の糸>

- ・作品の表現や内容、構成等から明らかな根拠を挙げて、自分がどのように考えたのかを説明する。【中B2三】

80字以上120字以内で書く。



- 自分の意見や考えをより効果的に伝える。
- ・相手意識・目的意識を明確にする。
- ・理由や根拠を明らかにする。
- ・効果的に伝えるための表現の工夫をする。

他教科等においても必要とされる「書く力」

社会生活においても必要とされる「書く力」



指導のポイント例

◆100字前後の文章を書くことに慣れさせる!

□書く場の設定をする。

- ・単元のどの時間で、1時間のどの過程で、「書く場」を設定するのか明確にする。

□100字の文章構成を考える。

はじめ

- ・～について考えます。

中

- ・根拠
- ・理由
- ・事例

おわり

- ・だから…
- ・このように…

系統的
段階的
繰り返し } 指導

- ①「はじめ」「中」「おわり」に「何を」「どのように」書くのかを指導をする。(「型」「語彙」)
- ②「結論」をどこに示すのが明確にする。
- ③どのような語彙を使って、それぞれ「何文」で表現するのか考える。

基礎・基本の習得から活用への道筋をはっきりさせた指導

発達段階に応じた系統的な指導

指導内容を明確にした重点的な指導

「書くこと」

- 事実と意見を区別する。
- 構成を工夫する。
- 根拠を明確にする。

相手意識・目的意識・場面意識

- ◆ 記録や報告の文章
- ◆ 意見や主張の文章
- ◆ 感想の文章

「書き方」の工夫を
「書くこと」に生かす

「読むこと」

◆「説明的な文章」

- 文末表現
- 形式段落のつながりと文章構成
- 話題提示や具体的事例
- 説明的な表現の工夫

◆「文学的な文章」

- 複合動詞
- 比喩表現
- 倒置文
- 反復表現・反復動作

京都府（基礎）学力診断テストとの関連

【小学校】

第6学年を対象に実施した「京都府小学校基礎学力診断テストの成果と課題」と「全国学力・学習状況調査」との関連

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 ⇨…全国調査との関連

話すこと・聞くこと

- ◇ 「何についての話し合いであったか」等、話の内容を聞き取ること。
- ◆ 話し手の意図を考えながら聞くこと。 ⇨ 要点を聞き取ること

書くこと

- ◇ 自分の考えを根拠となる理由をあげて書くこと。
(正答率 H16 74.3%、H18 82.0%)
- ◆ 文章の述べ方の工夫をとらえること。
(正答率 H17 65.1%、H18 58.8%)

⇨ 資料から必要な事柄を取り出すこと

読むこと

- ◇ 書かれている内容を正確に読み取ること。
- ◆ 書かれている内容を図と関係付けて読み取ること。
(正答率 H15 38.91%)

内容からではなく、イメージでとらえている誤答が多い。「書かれていることを、他の形式（図）に置き換える問題」 ⇨ 資料と関係付けて正しく読み取ること

言語事項

- ◇ 接続語の使い方、指示語を理解すること。
- ◆ 「修飾と被修飾との関係」を正しくとらえること。
(正答率 H17 31.8%、H18 23.7%)

すぐ後の語句や修飾する語句の持つ意味にとらわれた部分を選択する誤答が多い。誤答が分散する傾向も見られる。

「急に」がくわしくしている部分を問う（H17）

少女が 思い切って さよならを 言おうとしたとき、少年が アイ
ア (4.8%) イ (11.4%)

急に 目の覚めたような 声を上げた。
ウ (51.7%) エ 正答 (31.8%)

⇨ 文の構成（主語と述語及び修飾と被修飾との関係等）を理解すること

【中学校】

第2学年を対象に実施した「京都府中学校学力診断テストの成果と課題」と「全国学力・学習状況調査」との関連

◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点 ⇨…全国調査との関連

話すこと・聞くこと

- ◇ 「何が話し合われていたか」等、話し合い全体の話題をおおまかにとらえること。
- ◆ 話の各部分を正確に聞き取り、「話し手の意見や考えの中心」を聞き取ること。

⇨ 適切な情報を収集・活用すること

書くこと

- ◇ 身近で体験的なテーマについて自分の考えや意見を書くこと。
- ◆ 「説明的な文章」を基に根拠を明確にして、自分の考えを書くこと。

(無解答率 H18 8.7%)

「環境問題」をテーマにした1900字程度の文章を基に、40字以上60字以内で自分の考えを書く問題に対して、「自分の考え」が示されていない誤答が多い。

⇨ 伝えたい事柄や自分の考えを、根拠を明確にして書くこと

読むこと

- ◇ 文章の展開に即して主題や要旨をおおまかに読み取ること。
- ◆ 文章の構成を総合的にとらえたり、書かれていることを解釈し応用したりすること。(正答率 H18 46.4%)

目的に応じて文章を読んだり、活用したりすることに課題が見られる。「書かれていることを他の形式(円グラフ)に置き換える問題」

⇨ 書かれていることを解釈し応用すること

言語事項

- ◇ 「語句の意味」や「文と文の接続関係」を正確に理解すること。
- ◆ 「修飾・被修飾の関係」を正しくとらえること。
小学校からの課題が中学校でも現われている。すぐ後の語句や修飾する語句の持つ意味にとらわれた部分を選択する誤答が多い。

「粗大ゴミの」が修飾(くわしく)している部分を問う(H17)

「粗大ごみの	巨大な	山が	目に	入る。」
ア(40.9%)	イ(正答	55.5%)	ウ(2.0%)	エ(1.4%)

- ◆ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。

⇨ 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること

全国学力調査の特徴

今回の全国学力調査の最大の特徴は、問題のバリエーションである。通常テストの大半を占める読み取りはむしろ少なく、話す・聞く、書く、言語事項にわたって広く出題された。内容は、完全に学習指導要領を踏まえたものであり、学力のバランスも重視している。

問題の性格—習得と活用—

国語A、国語Bの問題が出されたが、それぞれ「知識(の習得)」と「活用」に関する内容を持っている。A問題は、「実生活に不可欠で常に活用できることが望ましい知識」が中心であったが、「技能」も含まれている。またB問題は、「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力」に関する内容、「様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力」に関する内容となっている。「活用」力は、習得に近い基本的なものと、応用に近いものの両方が出題されている。総括すれば、基礎的、基本的な知識・技能の習得力、基本的な活用力、更に課題解決のための応用的・実践的活用力のレベルの出題であったといえる。探究的な問題は含まれていなかったことを認識しておく必要がある。

得点の特徴

得点の全体的な特徴は、校種ごとのA問題、B問題の計4種類に関して、おおむね良好であった。都道府県別の状況は異なるが、一般的には危機的な状況は見受けられなかった。

小学校B問題における課題—これまでは抜け落ちていた学力観—

全体が順調な中で小学校B問題の得点が伸びず、課題が見出された。このことは、実生活を前提とした活用能力に弱点があったことを示している。設問に密着し、それに応答する形式の解答には困難は見られないが、設問を解釈し、そこから生産的に新しい内容を生み出す形式の解答にはとまどいもあったということになる。本府も例外ではない。学力調査対応という狭い視野ではなく、生涯学習的な学力という中長期の視野でこの課題には真正面から取り組んでいく必要がある。新しい学力の在り方が学校教育に問われている。

取組の在り方

今回の学力調査を受けて、国語科教育のすべての面で取組を変える必要はない。成果・到達点を踏まえ、問題点・課題を洗い出し、不十分な学力から取組を始めていく姿勢が重要である。学力調査の平均点に踊らされることなく、学級、学校、地区・地域単位で得点の構造をとらえ、取組の優先順位・重要課題を見出し、学習者にとって理解しやすく、取り組みやすい方法を案出していくことから手がけていくことが肝要である。

国語力の重視—言葉の働きへの着目の必要性—

国語ということでは、これまで文章・作品に書かれている内容、児童・生徒が書く・話す内容に傾斜しがちであった学習を再検討し、そこにどのような言葉の働きが見られるのか、その働きは有効なのかという言語の観点でとらえ直すことが必要である。国語を他教科等と関連付けて学習していく方向が打ち出されている。ということは、国語では他教科等で十分に活用できる言語能力を育てる必要性が唱えられたということである。「言葉の働きに着目した指導の一層の充実」がこれからの国語科教育の課題である。

京都府における算数・数学 の状況と改善のポイント

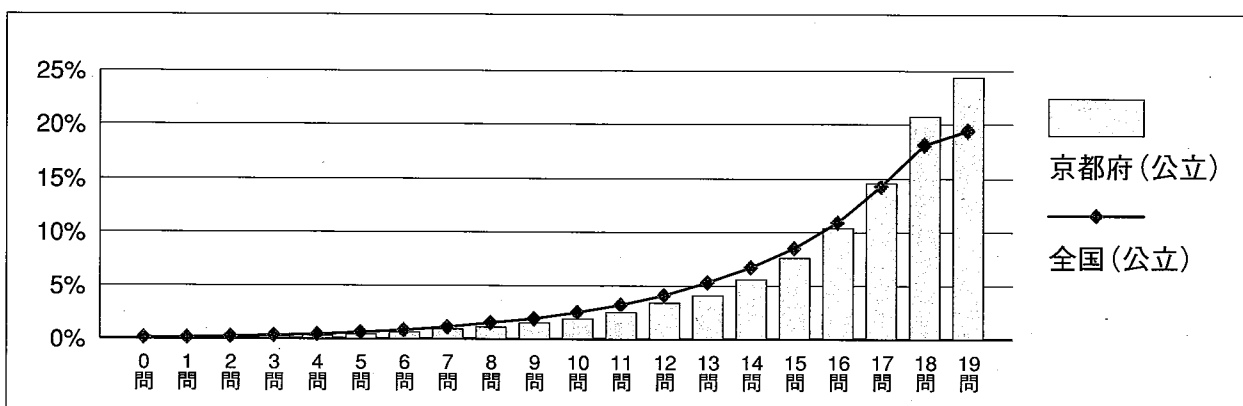
Ⅵ 京都府における算数・数学の状況と改善のポイント

1 小学校算数の概要

- 算数A（知識）については、児童の平均正答率が85.3%であり、全国（公立）を3.2ポイント上回っている。相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。
- 算数B（活用）については、児童の平均正答率が66.4%であり、全国（公立）を2.8ポイント上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

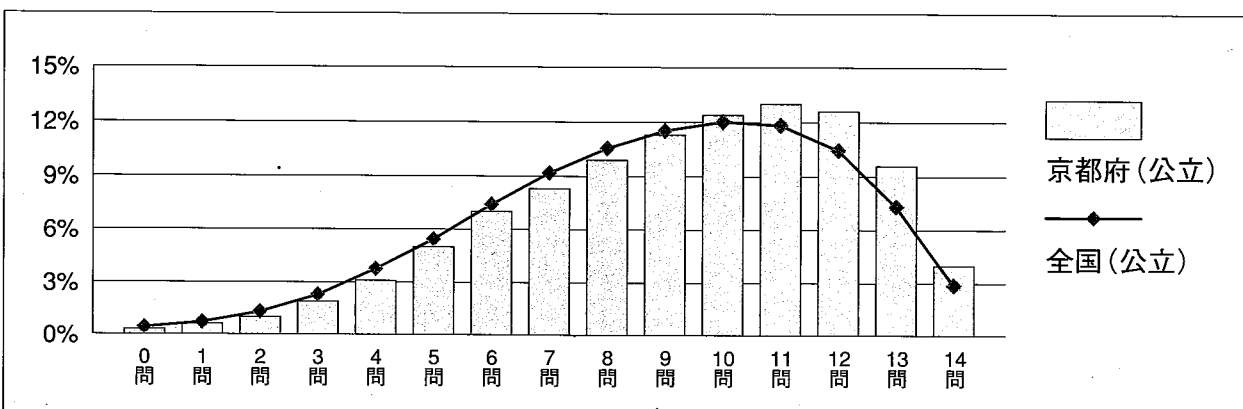
○算数A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	21,490	16.2/19	85.3	17.0	3.2
全国	1,125,585	15.6/19	82.1	17.0	3.4



○算数B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	21,485	9.3/14	66.4	10.0	2.9
全国	1,125,522	8.9/14	63.6	9.0	3.0



○課題等

数と計算

- ◇(A) 整数と小数の除法の問題 ($12 \div 0.6$) の正答率は全国を大きく上回っている。4年生時の基礎学力診断テストで正答率が高く、理解の定着がこの結果に反映していると考えられる。【A1(4)】
- ◆(A) 分数・小数の比較や数直線上に表すことに課題がある。分数・小数の意味や大きさの理解に課題があると考えられる。【A3(2)】
- ◆(A) 小数の乗法の意味について理解することに課題がある。基準量の「いくつ分」を正しくとらえられてない児童が多い。【A4】

量と測定

- ◇(A) 平行四辺形や三角形の面積を求める公式を理解し、面積を求めることは、相当数の児童ができている。【A5(1)、(2)】
- ◆(B) 「底辺×斜辺」で面積を求めている誤答率が正答率より高い。高さが外にある図形や情報過多の場面から必要な情報を取り出して面積を求めることには課題がある。【B5(3)】

図形

- ◇(A) 三角形や四角形の性質を理解し、角の大きさを求めたり作図したりすることは、相当数の児童ができている。【A6(1)、(2)】
- ◆(A) 提示された図形を二等辺三角形と判断し、内角の和で求めている誤答の割合は高い。見た目で判断してしまう傾向が見られる。【A6(1)】

数量関係

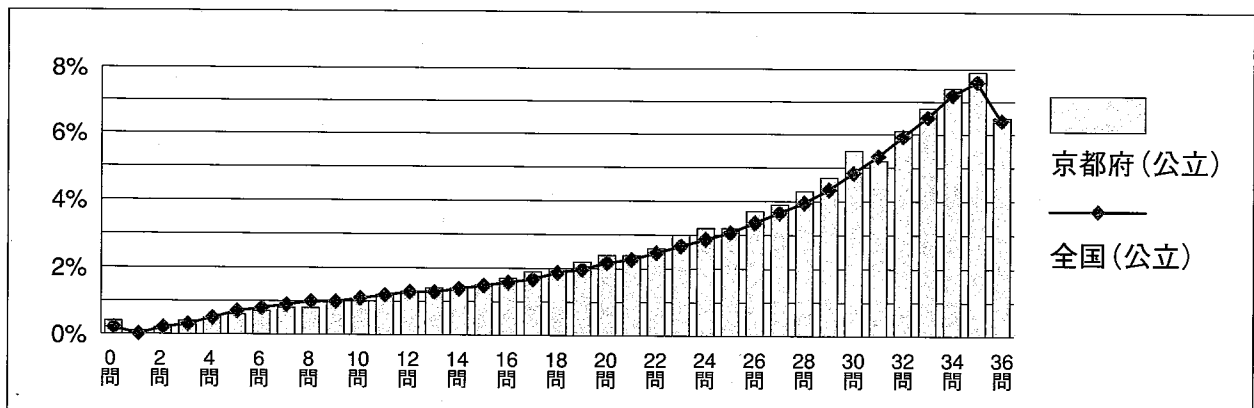
- ◇(A) 計算の順序のきまりについては、おおむね理解できている。「四則計算における乗除先行の理解」については、「特定の課題に関する調査」で課題となっているが、全国を大きく上回る正答率である。【A1(7)】
- ◇(B) 棒グラフから数量の大小や変化の様子を読み取ることは、相当数の児童ができている。【B3(1)、(2)】
- ◆(B) 百分率を用いて問題を解決することや段階的に思考・判断を重ねて問題を解決することに課題がある。【B4(1)】
- ◆(B) 式の形に着目して計算の結果の大小を判断し、根拠を明確にして説明することに課題がある。【B6(2)】

2 中学校数学の概要

- 数学A（知識）については、生徒の平均正答率が72.8%であり、全国の平均正答率より上回っているが、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要がある。
- 数学B（活用）については、生徒の平均正答率が61.2%であり、全国の平均正答率より上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

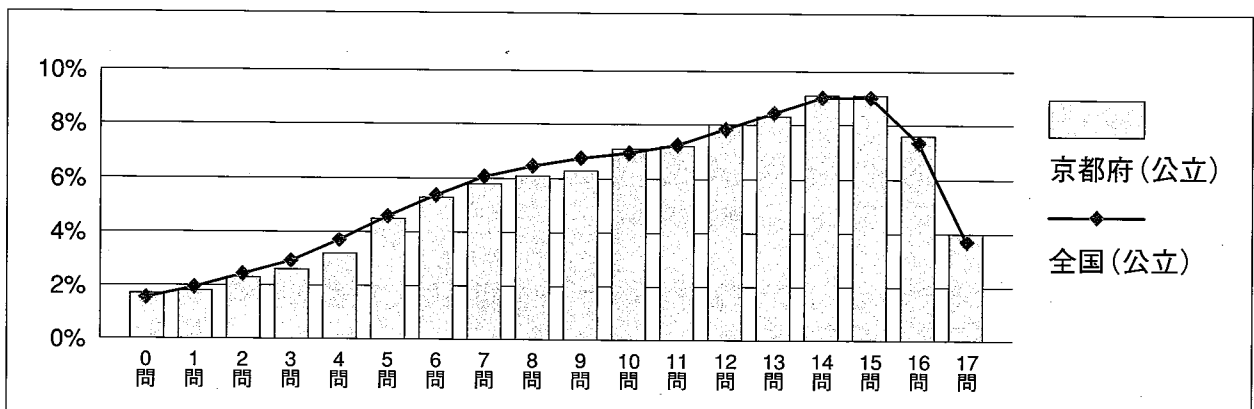
○数学A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,277	26.2/36	72.8	29.0	8.4
全国	1,023,316	25.9/36	71.9	29.0	8.7



○数学B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,300	10.4/17	61.2	11.0	4.4
全国	1,023,516	10.3/17	60.6	11.0	4.3



○課題等

数と式

- ◇(A) 指数を含む計算、式の値を求めること、一元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができています。特に、分数の除法の計算は、全国平均正答率を大きく上回っている。【A1(1)】
- ◆(A) 文字式が表す意味の理解、方程式における移項の意味の理解、等式変形に課題がある。【A2(3)、(4)、3(1)】
- ◆(B) 条件に合う式を見だし、文字式を用いて表し説明することや、結論が成り立つことを説明するために必要な条件を示すことに課題がある。無解答率もかなり高くなっている。【B3(3)】

図形

- ◇(A) 基本的な平面図形の性質の理解については、相当数の生徒ができています。特に、円周角から中心角を求める問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。【A6(2)】
- ◆(A) 正答率は全国平均を上回っているが、円柱と円錐の体積の関係の理解に課題がある。【A5(4)】
- ◆(B) 正答率は全国平均を上回っているが、仮定と結論の意味を理解して証明の構想を立てることに課題がある。特に、無解答率が高くなっている。【B4(1)、(2)】

数量関係

- ◇(A) 場合の数を求める問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。【A14(2)】
- ◆(A) 正答率は全国平均を上回っているが、反比例の表を完成させることに課題がある。【A10(1)】
- ◆(A) 確率の意味の理解に課題がある。【A14(1)】
- ◇(B) 説明すべき事柄を正しく選択し判断することは、相当数の生徒ができています。【B3(2)】
- ◆(B) 正答率は全国平均を上回っているが、数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして数学的に表現することに課題がある。特に、無解答率が高くなっている。【B5(2)、(3)】

3 算数・数学の授業改善に向けて

更なる基礎的・基本的な知識・技能の定着を

- ・数量や図形に関する基礎的・基本的な知識や技能は、生活や学習の基盤となるものである。操作や体験を取り入れた実感的な理解、実生活への活用を重視して、学年間や校種間での反復など丁寧な繰り返し指導により、基礎的・基本的な知識や技能を確実に定着させることが大切である。
- ・例えば、小学校の課題である小数の乗法の意味理解、乗法・除法における関係の整理や立式、百分率を用いた問題解決などは、その後の中・高等学校における学習内容と密接な関連がある。このような内容の指導には、小・中学校の教師がともに教材研究をし、公開授業を行うなど、9年間を見通した授業改善の取組が有効である。

数学的な思考力・表現力の育成を

- ・数学的な思考力や表現力を高めるためには、根拠を明らかにし筋道を立てて考えさせたり、言葉や式、図、表、グラフなどを用いて自分の考えを表現したりするなどの学習活動を充実させることが大切である。
- ・例えば、中学校の課題である図形の証明においては、生徒たちの多様な考えを生かして学習し、充実させることが必要であり、生徒が証明を書くだけでなく、生徒同士が証明を評価し合い、よりよい記述や表現の仕方を考えて、証明の学習に取り組むことが有効である。

学習意欲の向上と授業の見直しを

- ・学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりするために、学習し、身に付けたものを、日常生活や他教科等の学習、より進んだ算数・数学の学習へと活用することが大切である。
- ・教師の一方的な講義やワークシートの問題を解くだけ等の児童生徒の受動的な授業ではなく、自ら考えとともに、学級全体で考えを深め合う話し合いがある授業を目指す。そのためには、教師が互いに授業の質を高めようとする授業研究に取り組むことが大切である。
- ・「よい問題」で考えさせることが大切である。「よい問題」とは、児童生徒にとって興味がわき、適度な困難さがあり、しかも、数学的な発展性・応用性がある問題である。
- ・今後の学習指導要領の改訂を見通し、既習内容をどのように新たな学習に生かすかを考えることが大切である。小・中学校の連携も含めて、繰り返し指導することを意識することが大切である。

小学校算数A 数と計算

課題の背景

- 分数・小数の比較や数直線上に表すことに課題がある。
- 4年生時の京都府基礎学力診断テストでは、整数の四則計算や数直線の読み取りは、おおむねできている。
- 過去数年間の基礎学力診断テストでは、分数の小数化、小数の分数化に課題が見られる。2/3を2.3や3.2とするなど、見かけ上の処理を行い、分数や小数の意味理解がなされていない誤答の割合が高い。

分数・小数の意味理解が十分でない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



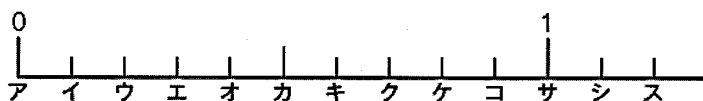
取組の一例

重点課題 分数や小数の意味と表し方について理解する。

授業を変えるポイント!

算数的活動により、分数に対する感覚を豊かにする。
小数と分数、どちらでも表現できることの便利さやよさの指導を重視する。

次の数直線には、とがりあった整数の間を10等分した目もりがついています。
下の問題に答えましょう。



数直線の上に小数を、下に分数を並べてみよう。

(1) $\frac{7}{10}$ の目もりの記号を、アからスまでの中から1つ選んで、書きましょう。

(2) 0.5 , $\frac{7}{10}$, $\frac{4}{5}$ の中で、いちばん大きい数を数直線で見つけます。
いちばん大きい数の目もりの記号を、アからスまでの中から1つ選んで、書きましょう。

目盛りを1つとばしでみると、どんな分数で表せるかな。

(小A3(2))

指導の系統性

- ☆意味の理解を大切に!
- ☆算数的な活動を重視!
- ☆必要に応じて繰り返し指導!

正の数と負の数

【中学校1年】

分数の意味と表し方

【小学校4年】

分数の加法及び減法
等しい分数 小数を分数に

【小学校5年】

異分母分数の加法及び減法
分数の乗法及び除法

【小学校6年】

小学校算数B 量と測定

課題の背景

- 正答率が低く、「底辺×斜辺」で面積を求めている誤答率が正答率より高い。
- 基本的な平行四辺形の面積を求めるA問題は、相当数の児童ができています。
- 過去数年間の基礎学力診断テストでは、鈍角三角形など多様な三角形において、底辺や高さがとらえられていない傾向がある。

様々な図形の底辺や高さの関係の理解が十分でない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



取組の一例

重点課題 底辺や高さ等が様々な位置にある図形の面積を求める。

授業を変えるポイント!

様々な図形をかいたり、切り取って向きを変えたりしながら、それぞれの底辺に応じた高さをとらえさせる。
 情報過多の場面において、必要な情報を選択して解決を図る活動を重視する。

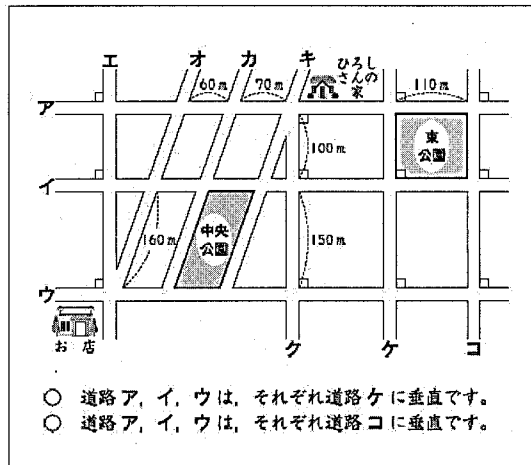
- (3) ひろさんの家の近くに東公園があります。
 東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。
 答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。

必要でない情報はどれかな?

なぜ必要ないのだろう?

まぎらわしさの原因は何かな?

(小B5(3))



指導の系統性

- ☆多様な見方で図形をとらえることを大切に!
- ☆算数的活動を重視!
- ☆情報過多の問題にチャレンジ!

柱体、錐体の
表面積と体積

【中学校1年】

面積の意味・正方形及び
長方形の面積

【小学校4年】

三角形及び
平行四辺形の面積

【小学校5年】

体積

【小学校6年】

中学校数学 A 数と式

課題の背景

- 全国平均を上回っているが、無解答率が高い。移項や両辺を3で割る際に様々な間違いが見られる。中には $X=3$ や $y=1$ という誤答も見られる。
- 過去数年間の中学校学力診断テストでは、正答率は6割を超えている。
- 違う文字について解く、移項の際に符号を間違える、両辺を係数で割る際に間違えるといった傾向が見られる。

等式の性質や移項の意味理解が十分になされていない可能性がある。「yについて解く」という数学的な表現が分かりにくい。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



取組の一例

重点課題

目的を明確にして等式を変形する。

授業を変えるポイント!

「文字について解く」という数学的な表現を日常生活の具体例から理解させる。

意味を理解しているが、等式を正しく変形できない生徒に対しては、自ら誤りに気づき、修正する活動を取り入れる。

等式 $2x+3y=9$ を、yについて解きなさい。

【誤答例】 (1) $-\frac{2x+9}{3}$

(2) $-2x+3$

(3) $\frac{2}{3}x+3$ または $\frac{2x+9}{3}$

(中A2(4))

方程式や一次関数と関連付け、繰り返して指導する。

三角形の面積や円、おうぎ形といった具体的な場面で目的に応じて変形することのよさを実感させる。

文字式の意味を読み取る活動を取り入れる。

指導の系統性

☆等式の性質や移項の意味理解を
ていねいに!
☆必要に応じた繰り返し指導!

交換法則、結合法則
分配法則

【小学校5年】

文字の式
方程式

【中学校1年】

等式の変形、連立
方程式、一次関数

【中学校2年】

二次方程式

【中学校3年】

二次方程式、式と証明
高次方程式

【高等学校】

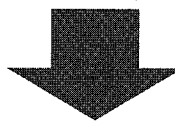
中学校数学 A 図形

課題の背景

- 柱体の体積は錐体の体積の2倍であると考えた生徒が約1/3である。
- 過去の中学校学力診断テストでは、問題の難易度にもよるが正答率は35%から45%の間を推移している。
- 国の調査と同様に2倍、さらには、3倍、4倍と考える、問題に書かれた数字をそのまま答えるといった傾向が見られる。

直感で平面的に判断し、体積の量感が実感として理解できていない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



取組の一例

重点課題 錐体の体積を柱体の体積と関連付けて理解する。

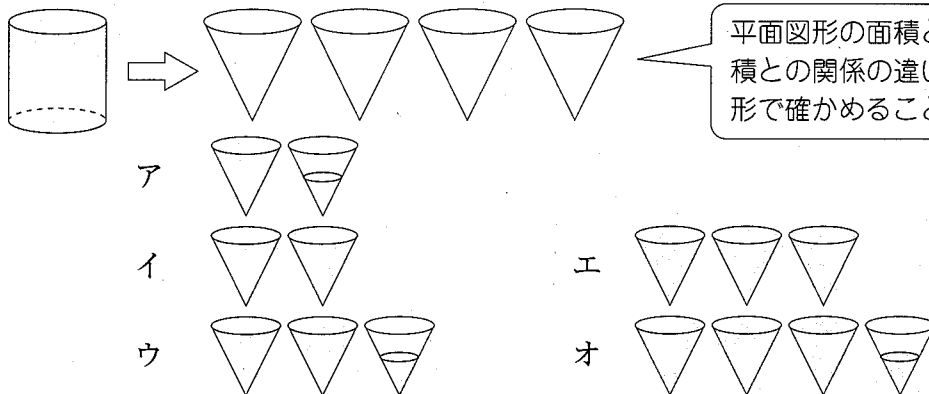
授業を変えるポイント!

柱体と錐体の体積の関係について、実験や実測を通して、実感を伴って理解できるようにする。

下の図は、円柱、円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは等しいことが分かっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。このとき、下のアからオの中に、円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを1つ選びなさい。

円柱から円錐に水を移す、逆に円錐から円柱という双方向の操作から理解を深める。

平面図形の面積と空間図形の体積との関係の違いを具体的な図形で確かめることで気付かせる。



(中A5(4))

指導の系統性

- ☆直感による気付きを大切にしながら、判断の根拠を表現する!
- ☆実験や実測を通じた実感を伴う理解!

立方体、直方体の見取り図・展開図、体積

【小学校6年】

柱体、錐体の表面積と体積

【中学校1年】

空間座標とベクトル

【高等学校】

中学校数学B 数量関係

課題の背景

- 説明すべき事柄を正しく選択し判断することは、相当数の生徒ができています。
 - 仮定と結論の意味を理解して、証明の構想を立てたり、文字式などを用いて説明したりすることに課題がある。
 - 事象から数量に着目し、それらの間に成り立つ関係を見だし、数学的に表現することに課題がある。
- 日常的な事象を理想化したり、単純化したりして、その特徴を十分とらえられていない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



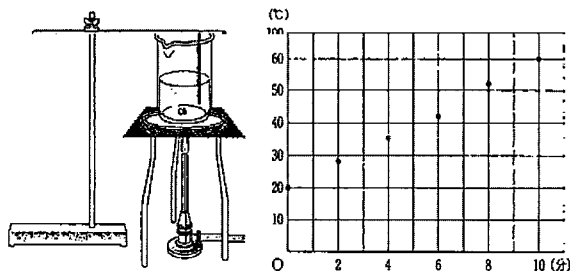
取組の一例

重点課題 数学的な思考力・表現力を育成する。

授業を変えるポイント!

根拠を明らかにして、筋道を立てて考え、表現する活動を重視する。言葉や数、式、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて、問題の解決を図る指導を充実する。

- 5 理科の授業で、水を熱したときの水温の変化を調べる実験をしました。右下の図は、水を熱し始めてからの時間と水温の関係を、2分ごとに10分後までかき入れたものです。



- (2) 洋子さんは、このグラフを見て、「水を熱し始めてから x 分後の水温を y °C とすると、 y は x の一次関数とみることができる。」と考えました。「 y は x の一次関数とみることができる」のは、グラフのどのような特徴からですか。その特徴を説明しなさい。

日常的な場面や他教科の学習場面において、数量の関係を理想化したり、データを単純化したりして、数学的な表現や処理ができるようにし、考察することが大切。

数学用語について、言葉や数式や表、グラフなどからは、どのように表現できるのか意味理解を図る。

(中B5(2))

指導の系統性

☆算数的活動から数学的活動へ

☆帰納的、類推的、演繹的、発展的、統合的などの考えを育成

算数的活動

- * 具体物を用いて数量や図形についての意味を理解する活動
- * 知識・技能を実際の場面で活用する活動
- * 問題解決の方法を考え説明する活動 など

【小学校】

数学的活動

- * 数学を生み出す活動
- * 数学を利用する活動
- * 数学的に伝え合う活動
- * 数学的に実感する活動 など

【中学校】

◆算数・数学における系統的学習の在り方◆

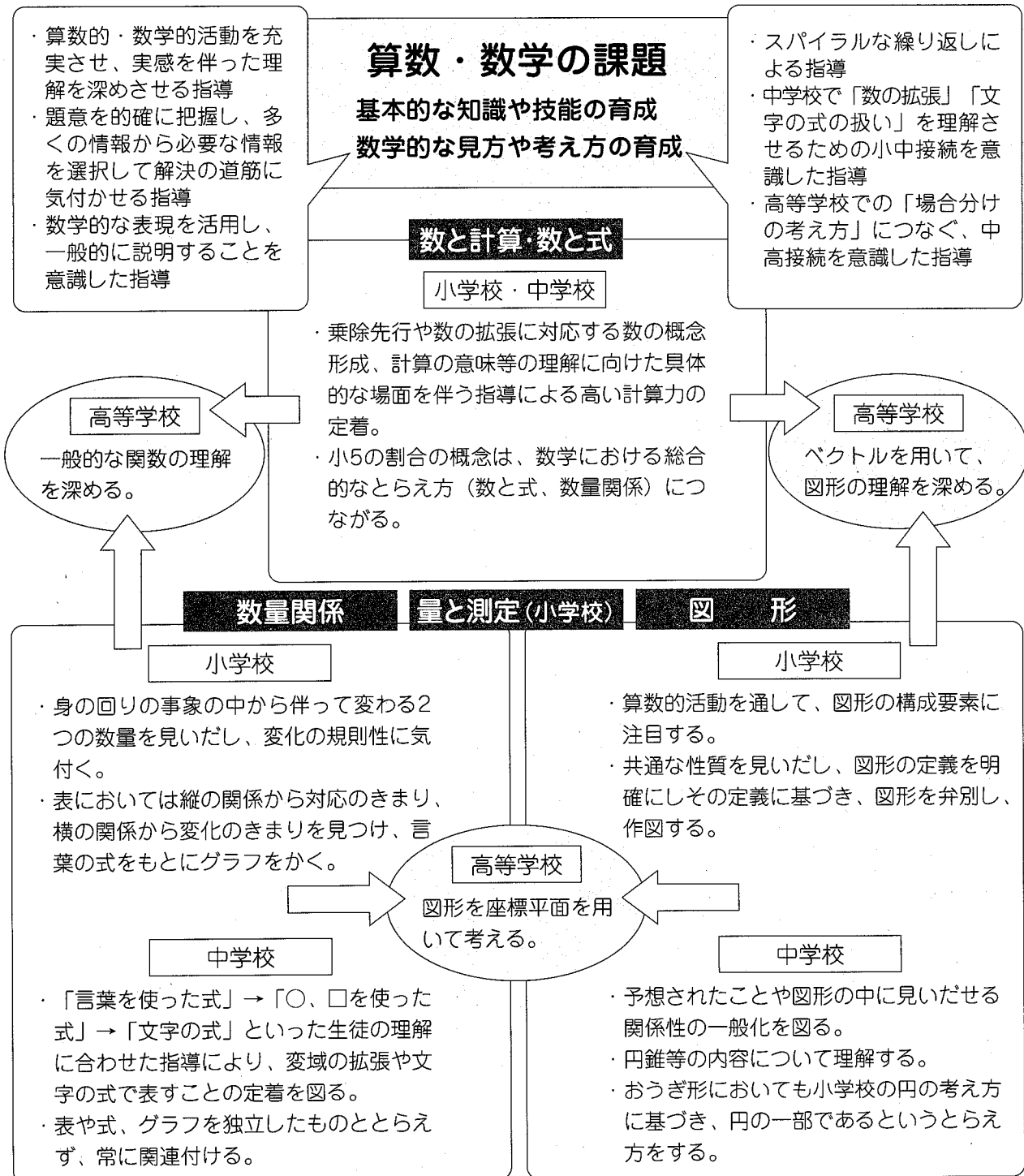
～小・中連携の視点から～

○小・中の学習内容を系統化した指導

それぞれの学習内容がどの学習を前提としているのか、あるいは、次のどの段階の学習とつながっているかについて、校種を越えた検討が必要である。

○問題解決的な学習を取り入れた指導

小学校における問題解決的な学習をできる限り、中学校の授業に取り入れる。



5 算数・数学学習への意欲を一層高めていくこと

同志社女子大学教授 今井敏博

これからの社会においては、自ら考え、頭の中で総合化して判断し、表現し、行動できる力を備えた自立した社会人を育成することが重要になることが予想される。それを実現するためには、子どもたちに基礎的な知識・技能を確実に身に付けるとともにそれらを活用しながら自ら学び自ら考える力を身に付けていくことが必要である。

実際に課題を追究する活動を行うことで自ら学び自ら考える力を高め、一つの方向で進むだけでなく相互に関連しあって力を伸ばしていくことが大切であると思われる。そのためには、知識・技能の定着を図り、それらを活用して探究的な活動を促進することが望まれる。

基礎的・基本的な知識・技能の育成（いわゆる習得型の教育）と自ら学び自ら考える力の育成（いわゆる探究型の教育）とは、対立的あるいは二者択一的にとらえるのではなく、両方を統合的に育成していく指導が重要であり、そのために両者の間に活用型の教育・学習を位置付けることが必要であると思われる。

小学校算数では、知識については、算数A（知識）の結果から相当数の児童が学習内容をおおむね理解していると考えられるが、算数B（活用）の結果から、知識・技能を活用する力に課題があることが示された。また、中学校数学では、数学A（知識）の結果から基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要があり、数学B（活用）の結果から小学校算数と同様に知識・技能を活用する力に課題があることが示された。

具体的には、算数A（知識）では、分数と小数の中で最大の数を見付け数直線上で表す問題や、小数の乗法の意味を問う問題で正答率が比較的低く、算数B（活用）では、地図から面積を求めるのに必要な情報を見付け公式に当てはめる問題や、買い物の場面で必要な情報を読み取る問題で正答率が比較的低いという傾向があった。数学A（知識）では、等式変形の問題、立体の実感を伴う問題、反比例や確率の意味理解に関する問題で正答率が比較的低く、数学B（活用）では、数学的に説明する問題の正答率が低くまた無解答率が比較的高いという傾向があった。

算数・数学科の今後の方策としては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着、数学的な思考力・表現力の育成、数量や図形についての豊かな感覚の育成、算数的な活動・数学的な活動の充実、日常事象における数量関係に関する内容の指導の充実などを挙げるができると思われる。また、そのために児童・生徒の算数・数学学習への関心・意欲を一層高めていくことが重要であると考えられる。

「算数・数学」小委員会では、結果を分析するとともに、課題とすべき事柄が算数・数学科の指導に運用されていくことを目指して、小学校算数・中学校数学・高等学校数学の系統性という視点をも含めて議論を重ねてきた。本資料が日々の実践に活用されていくことを願っている。

児童・生徒の学習環境・
生活習慣

Ⅶ 児童・生徒の学習環境・生活習慣

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査をテーマごとに整理し、その中から「府としての課題」「取組の重点化を図る必要があるもの」を6つに絞り、それらの結果と教科の結果を関連させて分析した。学力の基盤として子どもの生活習慣や学習環境を見直すことは大変重要なことであり、各校、地域で更に分析し、学校における指導や家庭との連携、教育施策の充実・改善に生かしていただきたい。

1 質問紙から見える課題と改善の方策

①学習に対する関心・意欲・態度

- ・国語の勉強が好き、または、どちらかといえば好きの割合は、小学校が57.4%、中学校で54.5%、算数・数学の勉強が好き、または、どちらかといえば好きの割合は、小学校が65.2%、中学校で48.2%にとどまっている。
- ・読書習慣や新聞・テレビのニュースなどに対する関心が、学習意欲に影響していることから、学校や家庭、地域で読書活動や世の中の出来事に対する関心を高める取組を推進していく必要がある。
- ・児童生徒の分かるようになりたいという思いを大切に授業改善を進めるとともに、少人数授業やチームティーチング等の京都式少人数教育を効果的に活用していく。

②学習習慣

- ・学校の授業以外で、全く勉強しない児童生徒の割合が、正答率の低い層では小学校で1割、中学校で2割近くいる。
- ・基本的な生活習慣の確立とともに、学習習慣の確立に向け家庭との連携を一層強化するとともに、小学校の早い段階から定着に向けた取組を推進する。
- ・粘り強さや達成感を持たせるような取組を学級経営や部活動、行事など様々な活動の中で、意図的に計画し、体験させる必要がある。

③基本的な生活習慣

- ・朝食をとることや学校に持って行くものの準備等、基本的な生活習慣に関わる質問の間に関係が見られることや、生活習慣が学習時間等の学習習慣に及ぼす影響が見られることから、家庭との連携を一層強化するとともに、「親のための応援塾」「まなびアドバイザー」等の事業を有効に活用していく。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進していく。

④家庭でのコミュニケーション

- ・少子化、核家族化といった社会の変化や、テレビゲームなどの影響を受けて、家庭内でのコミュニケーション不足が指摘されている。子どもたちが、自分の気持ちを素直に表現したり、相手に対する思いやりの気持ちを身につけるためには、

家庭内での会話を深めることが大切である。

また、保護者も子どもの学習や生活に関心を持ち、話を聞いたり励ましたりするなど、心の通い合いに努めることが重要である。

⑤ 自尊意識

自分に自信がない子どもが増加し、自信の欠如が、学習意欲が高まらないことの一因であるとも言われている。自尊意識とは、自分への過信や自分勝手を許容するものではなく、「認められてうれしかった」「役に立てて良かった」「必要とされている」といった感覚を持つことから生まれてくるものである。

特に他者との関わりを通して感じ取る「自己有用感」を持たせることは、豊かな人間性や社会性の育成につながる。自然体験や社会体験を通して、地域の人々や異年齢の子どもたちと交流する場を積極的に持つことが求められる。

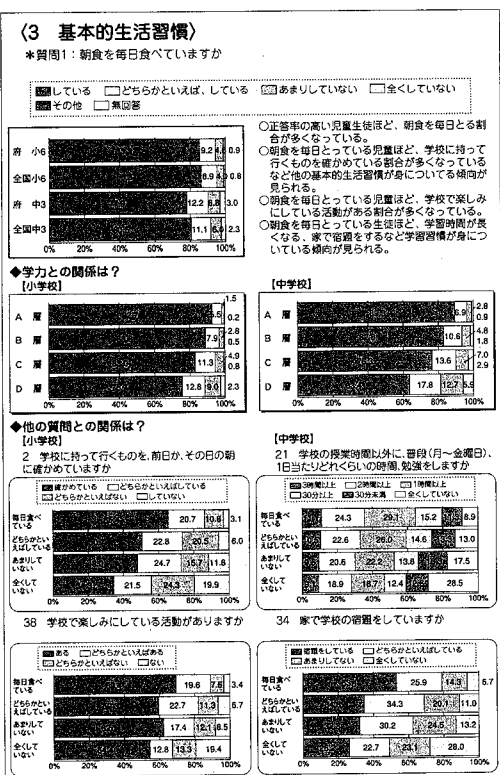
⑥ 運動・スポーツとの関連

外に出て遊んだり、運動・スポーツをして体を動かしたりしている児童生徒については、朝食等の基本的な生活習慣との関係が見られたり、将来の夢や目標、難しいことに挑戦しようとする意欲との関係も見られる。

幼い頃から、体を動かし、生涯にわたってスポーツに親しむことが大切である。

2 資料の見方

※以下の構成を原則としています。



(見出しと分析結果)

○どの設問に基づいた分析かを表示し、結果として読み取れることを文で示しています。

【上段グラフ：全国との比較】

○京都府の状況と全国の状況を割合で比較して帯グラフで表しています。

【中段グラフ：学習状況との関連】

○その設問と4層(人数比率により25%刻みで、4つの層分けを行っている。上位からA層、B層、C層、D層)に分けた学力状況との関連を表しています。

【下段グラフ：設問どうしの関連】

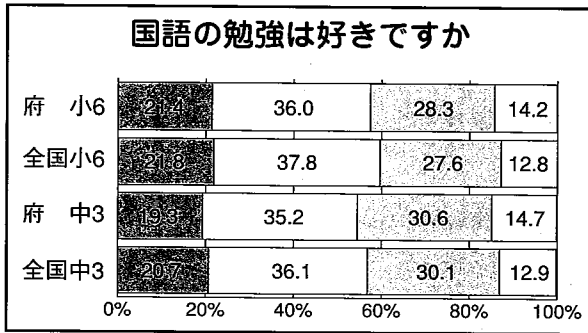
○関連した質問を選び多面的に状況が分かるようクロス集計しています。

〈1 学習に対する関心・意欲・態度〉

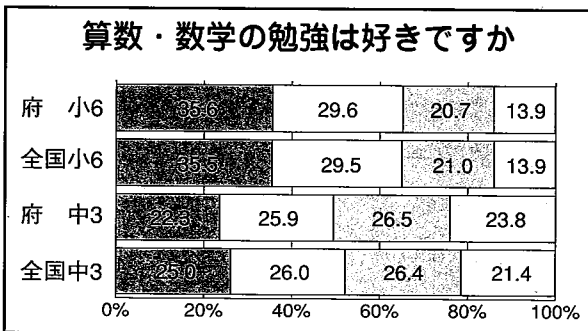
*質問68(小)・70(中)：国語の勉強は好きですか

*質問79(小)・81(中)：算数・数学の勉強は好きですか

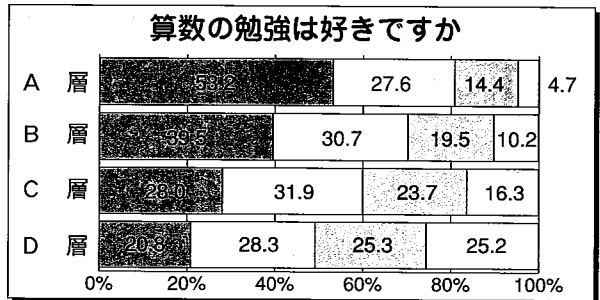
■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない
□ 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



- 正答率の高い児童生徒ほど、国語、算数、数学の勉強が好き割合は多くなっている。
- 読書が好き、新聞などのニュースに対する関心がある児童ほど、国語の勉強が好き割合は多くなる。
- 授業で自分の思いや考えを書くことが多いと答えている生徒ほど、国語の勉強が好き割合は多くなる。
- 数学が好きではないと答えた生徒も、四分の三以上は、数学ができるようになりたいと思っている。

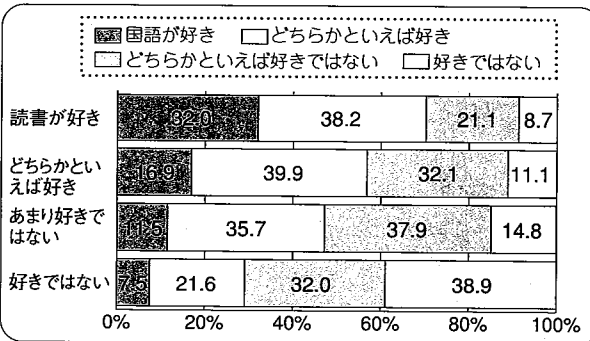


◆学力との関係は？ 【小学校】

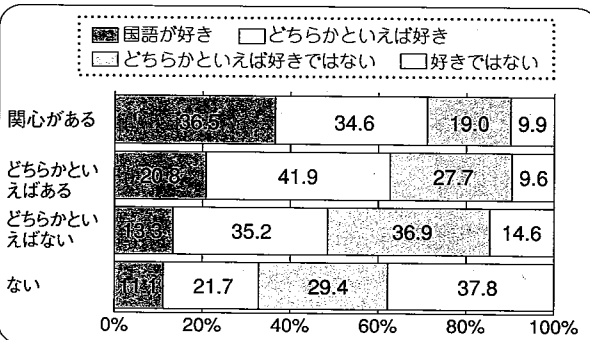


◆他の質問との関係は？ 【小学校】

71 読書は好きですか

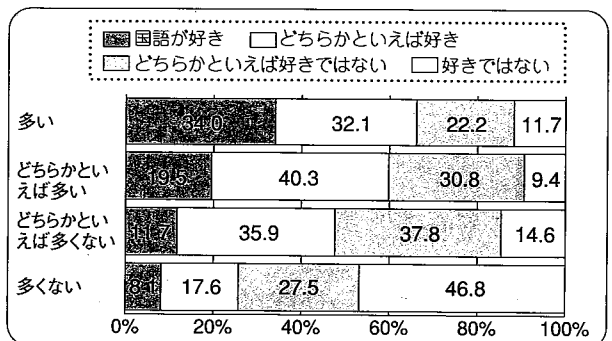


39 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか

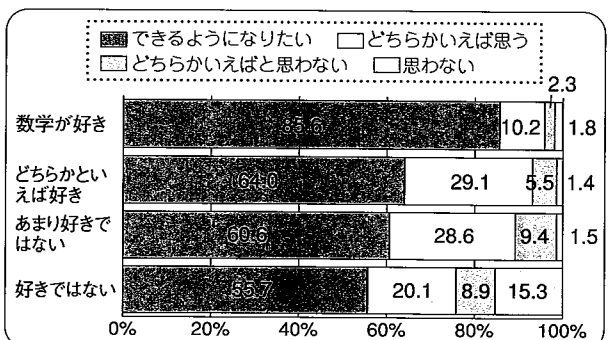


【中学校】

77 国語の授業では自分の思いや考えを書くことが多いですか



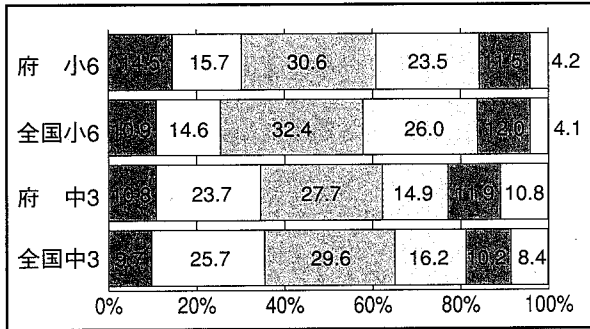
84 数学ができるようになりたいと思いますか



〈2 学習習慣〉

*質問21：学校の授業時間以外に、普段(月曜～金曜)、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか

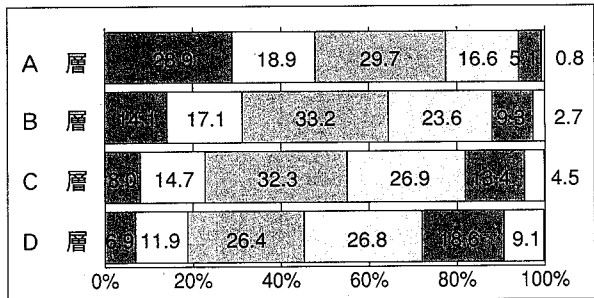
■ 3時間以上 □ 2時間以上 ▨ 1時間以上 □ 30分以上
 ■ 30分より少ない □ 全くしない ▨ その他 □ 無回答



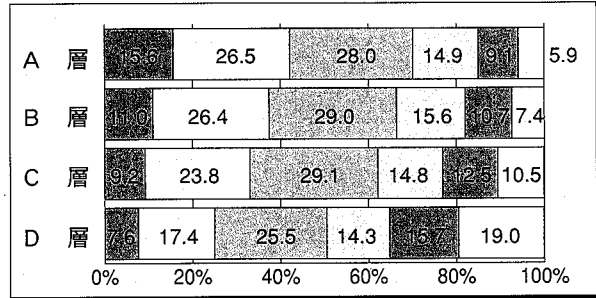
- 正答率の高い児童生徒ほど、学習時間は長くなっている。
- TVの視聴時間が長くなるほど、学習時間が短くなっている。
- 新聞などのニュースに対する関心がある児童ほど、学習時間が長くなっている。
- 宿題をしない生徒ほど、学校の授業以外の学習時間が全くない生徒の割合が多くなっている。
- 物事を最後までやり遂げて嬉しかった経験がある生徒ほど、学習時間が長くなっている。

◆学力との関係は？

【小学校】



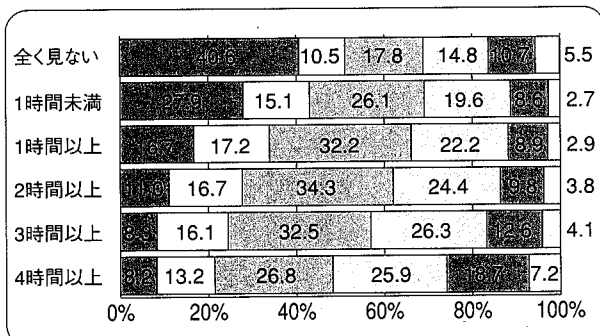
【中学校】



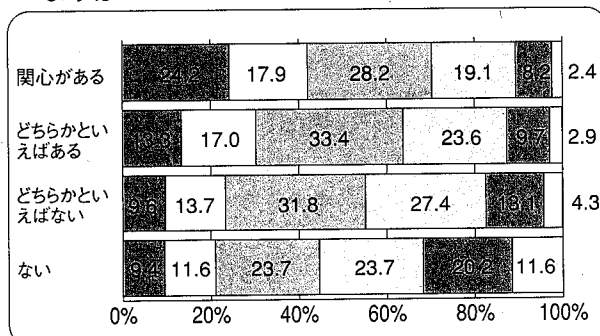
◆他の質問との関係は？

【小学校】

17 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか

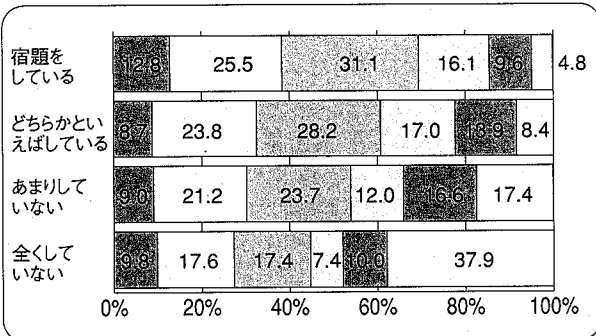


39 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか

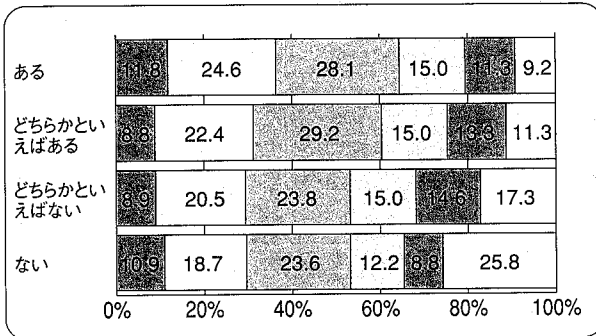


【中学校】

34 家で学校の宿題をしていますか



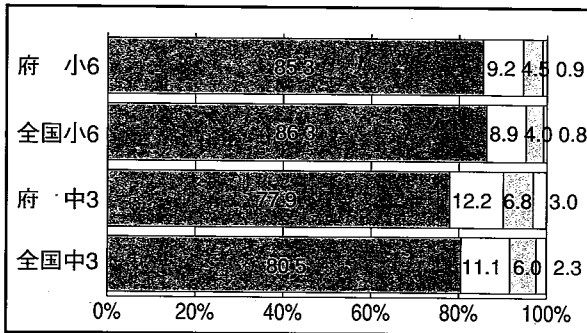
9 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがあります



〈3 基本的生活習慣〉

*質問1：朝食を毎日食べていますか

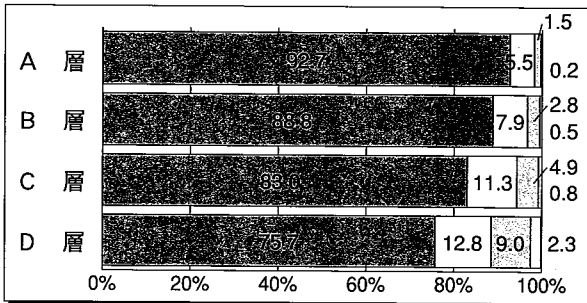
している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない
 その他 無回答



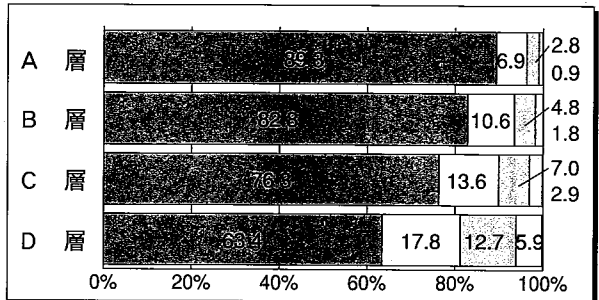
- 正答率の高い児童生徒ほど、朝食を毎日とる割合が多くなっている。
- 朝食を毎日とっている児童ほど、学校に持って行くものを確かめている割合が多くなっているなど他の基本的生活習慣が身につけている傾向が見られる。
- 朝食を毎日とっている児童ほど、学校で楽しみにしている活動がある割合が多くなっている。
- 朝食を毎日とっている生徒ほど、学習時間が長くなる、家で宿題をするなど学習習慣が身につけている傾向が見られる。

◆学力との関係は？

【小学校】



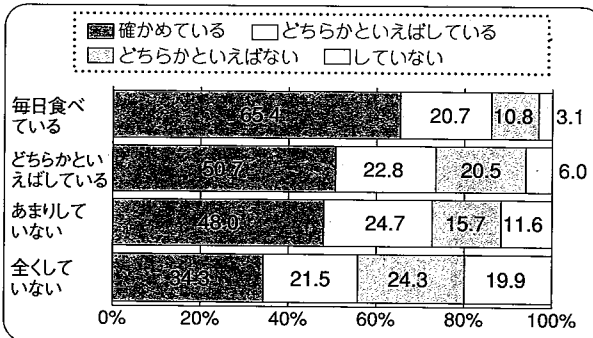
【中学校】



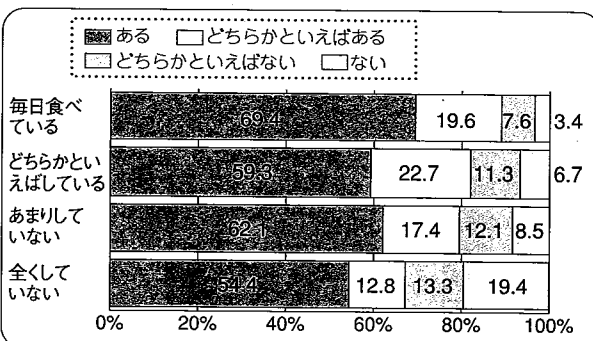
◆他の質問との関係は？

【小学校】

2 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

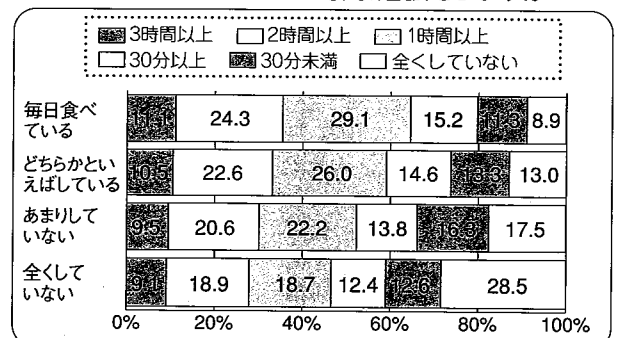


38 学校で楽しみにしている活動がありますか

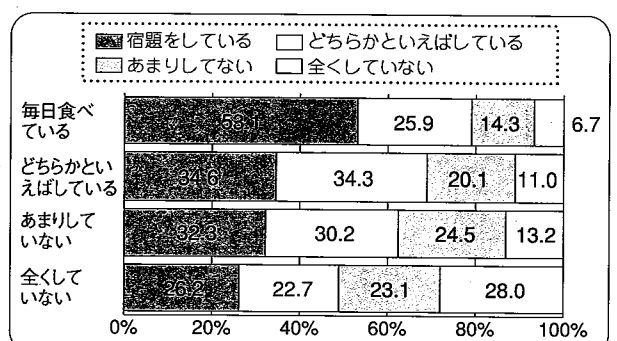


【中学校】

21 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



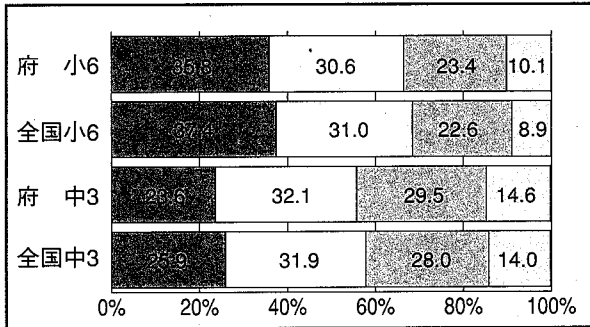
34 家で学校の宿題をしていますか



〈4 家庭でのコミュニケーション〉

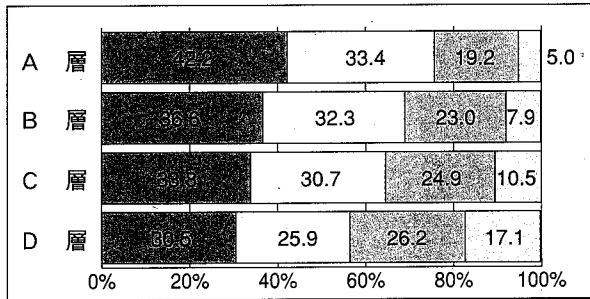
*質問27(小)・28(中)：家の人と学校での出来事について話をしていますか

している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない
 その他 無回答

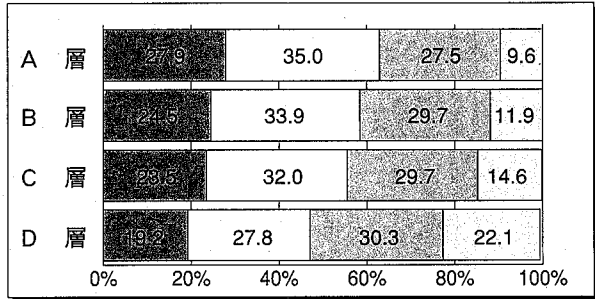


- 正答率の高い児童生徒ほど、家の人と学校での出来事について話をする割合が多くなっている。
- 家庭でのコミュニケーションをよくしている児童は、自分の興味のあることについて調べたり勉強したりするなど学習意欲が高い傾向が見られる。
- 家庭でのコミュニケーションをよくしている生徒は、学習時間が長い傾向が見られる。
- 家庭でのコミュニケーションをよくしている児童生徒の方が、人の気持ちを思いやろうとしたり、世の中の出来事について関心を持ったりする傾向が見られる。

◆学力との関係は？ 【小学校】

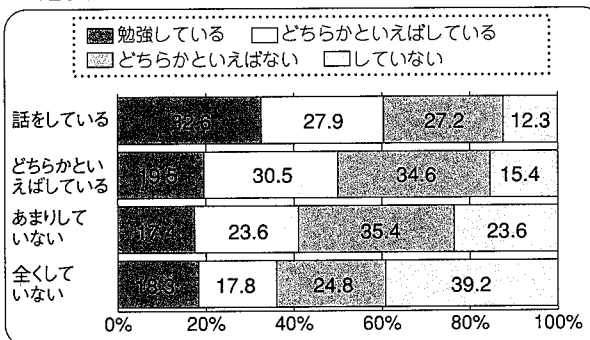


【中学校】



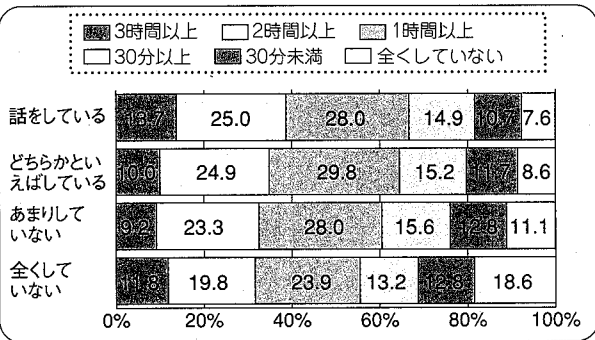
◆他の質問との関係は？ 【小学校】

35 家で自分の興味のあることについて調べたり、勉強したりしていますか

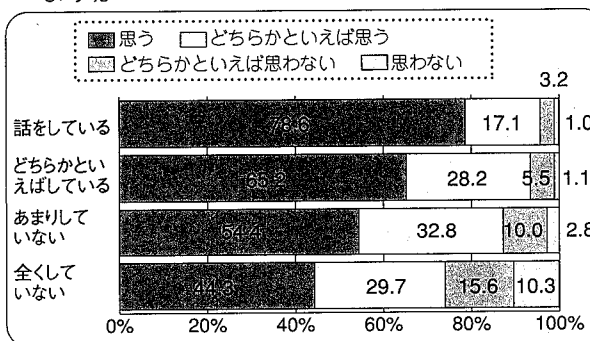


【中学校】

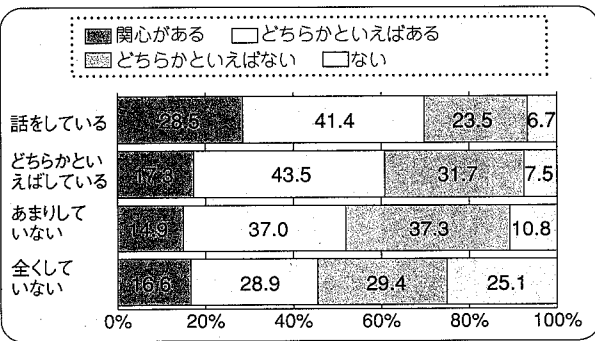
21 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



48 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



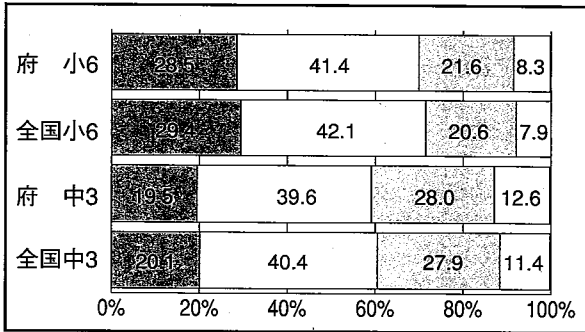
42 世の中のいろいろな出来事に関心がありますか



〈5 自尊意識〉

*質問11：自分にはよいところがあると思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他
 無回答



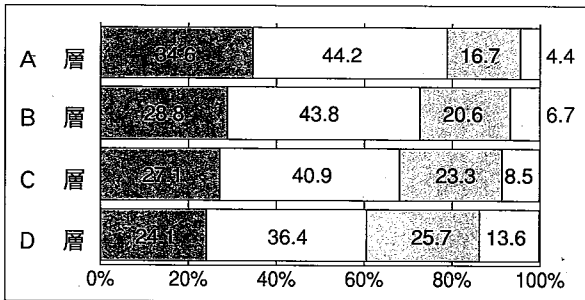
○正答率の高い児童生徒ほど、自分によいところがある・どちらかといえばあると答える割合が多くなっている。

○自分によいところがあると思う児童生徒は、学校の規則を守るといった規範意識や人の役に立つといった社会性が高い傾向が見られる。

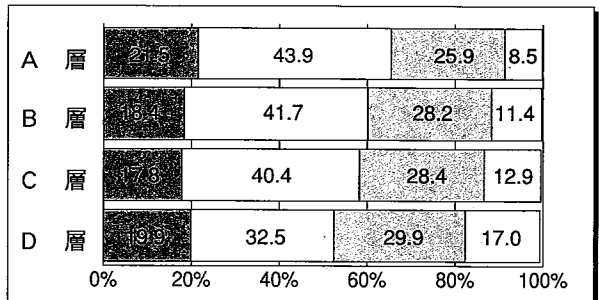
○自分によいところがあると思う児童生徒は、学校での出来事について話をするなど家庭でのコミュニケーションがあり、物事を最後までやり遂げた達成感を体験している傾向が見られる。

◆学力との関係は？

【小学校】



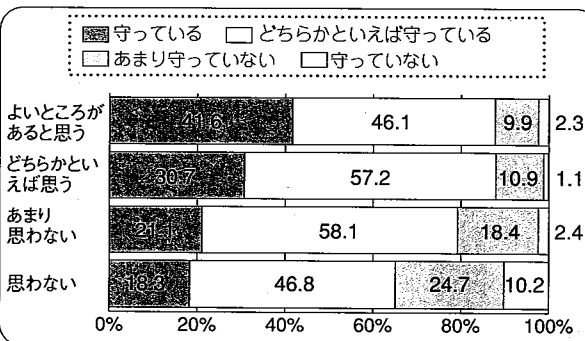
【中学校】



◆他の質問との関係は？

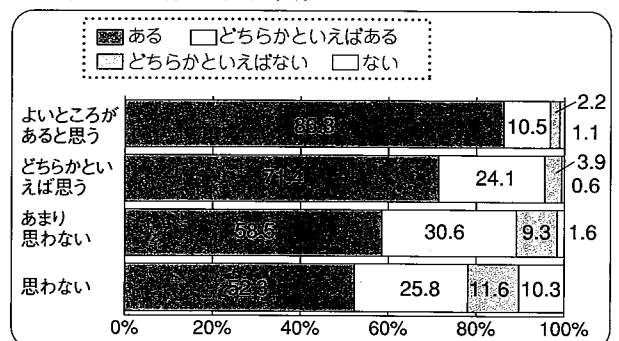
【小学校】

44 学校の規則を守っていますか

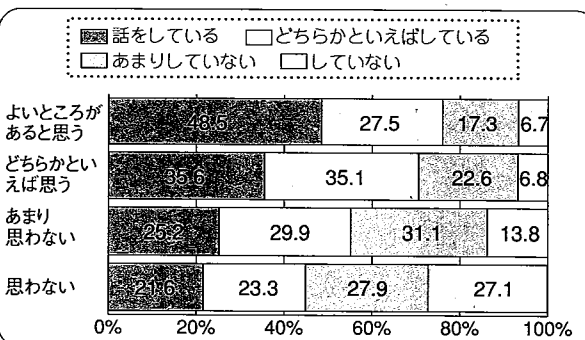


【中学校】

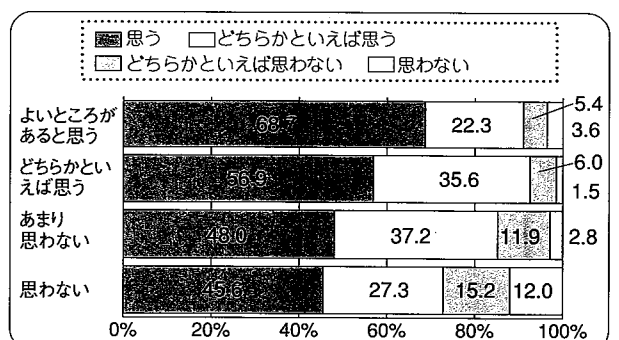
9 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



27 家の人と学校での出来事について話をしていますか



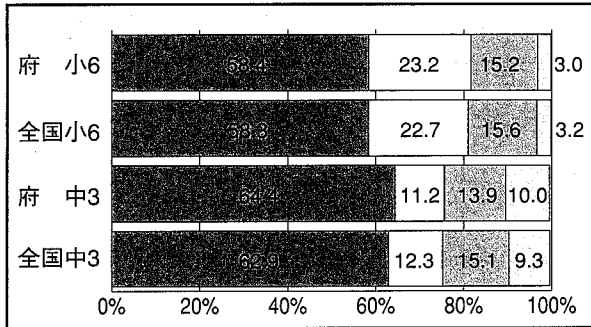
52 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



<6 運動・スポーツとの関連>

*質問8：外に出て遊んだり、運動・スポーツをして体を動かしたりしていますか

している どちらかといえば、している あまりしていない
 全くしていない その他 無回答

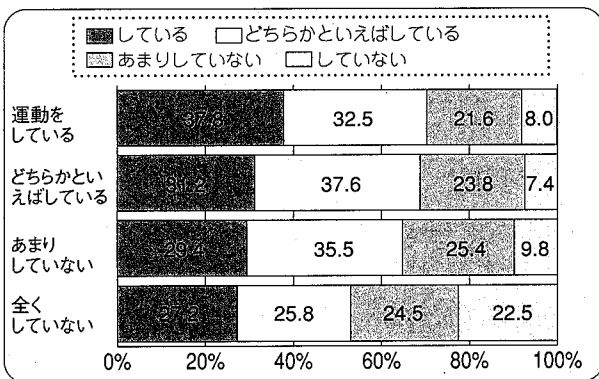


- 運動・スポーツをして体を動かしている児童生徒は、小中学校とも全国平均とほぼ同程度である。
- 運動・スポーツをして体を動かしている児童生徒は、毎日同じくらいの時刻に寝たり、朝食をとったりするなどの基本的な生活習慣が身につけている傾向が見られる。
- 運動・スポーツをして体を動かしている児童生徒は、将来展望を持っていたり、難しいことに挑戦しようとする傾向が見られる。

◆他の質問との関係は？

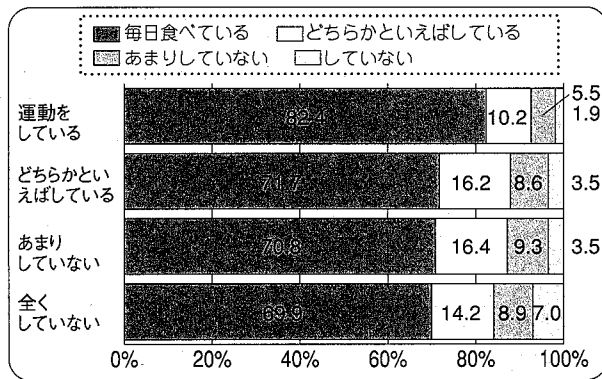
【小学校】

質問4：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

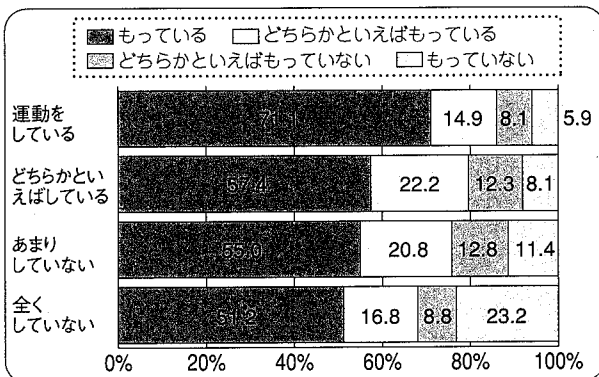


【中学校】

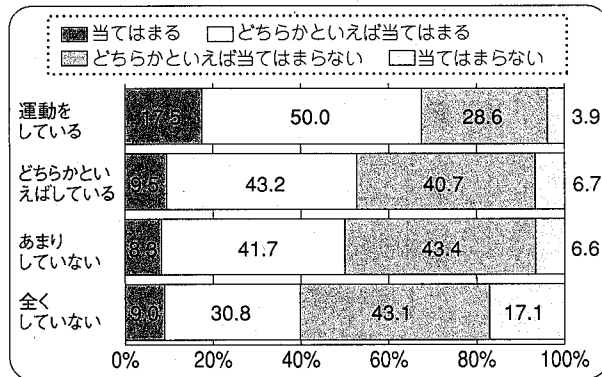
質問1：朝食を毎日食べていますか



質問12：将来の夢や目標を持っていますか



質問10：難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか



京の学力向上検討委員会の開催経過

準備会 平成19年8月6日(月) ルビノ京都堀川

- 1 委員会の設立準備
- 2 小委員会の打ち合わせ

第1回国語小委員会 平成19年8月21日(火) 法華クラブ
学識経験者との打ち合わせ

第1回算数・数学小委員会 平成19年8月24日(金) 同志社女子大学
学識経験者との打ち合わせ

第1回委員会 平成19年8月28日(火) ルビノ京都堀川

- 1 委員会の目的・構成・日程等について
- 2 学識経験者からの基調提言

京都大学 教授 田中 耕治 先生
京都教育大学 教授 植山 俊宏 先生
同志社女子大学 教授 今井 敏博 先生

第2回国語小委員会 平成19年10月29日(月) ルビノ京都堀川
第2回京の学力向上検討委員会への提出資料の検討

第2回算数・数学小委員会 平成19年11月2日(金) パレスサイドホテル
第2回京の学力向上検討委員会への提出資料の検討

第2回委員会 平成19年11月5日(月) ルビノ京都堀川

- 1 各小委員会等からの速報データをもとにした意見交流
- 2 今後必要な分析内容について協議

第3回国語小委員会 平成19年11月12日(月) ルビノ京都堀川
「学校改善支援プラン」作成の打ち合わせ

第4回国語小委員会 平成19年11月26日(月) メルパルク
「学校改善支援プラン」作成の打ち合わせ

第3回算数・数学小委員会 平成19年11月27日(火) キャンパスプラザ
「学校改善支援プラン」作成の打ち合わせ

第3回委員会 平成19年12月3日(月) ルビノ京都堀川

- 1 小委員会等からの進捗状況の報告
- 2 「学校改善支援プラン」の検討

第5回国語小委員会 平成19年12月11日(火) パレスサイドホテル
「学校改善支援プラン」最終案の検討

第4回算数・数学小委員会 平成19年12月12日(水) ガーデンパレス
「学校改善支援プラン」最終案の検討

第4回委員会 平成19年12月18日(火) ルビノ京都堀川

- 1 小委員会等からの「学校改善支援プラン」最終案報告
- 2 「学校改善支援プラン」のまとめ

第6回国語小委員会 平成20年1月8日(火) キャンパスプラザ
「学校改善支援促進事業」の検討、フォーラムの打ち合わせ

第5回算数・数学小委員会 平成20年1月8日(火) キャンパスプラザ
「学校改善支援促進事業」の検討、フォーラムの打ち合わせ

第5回委員会 平成20年1月21日(月) ルビノ京都堀川

- 1 「学校改善支援プラン」の完成
- 2 「学校改善支援促進事業」の検討

第7回国語小委員会 2月4日(月) JA会館
「学校改善支援促進事業」冊子原稿の編集

第6回算数・数学小委員会 2月4日(月) 京阪ホテル
「学校改善支援促進事業」冊子原稿の編集

第6回委員会 平成20年2月13日(水) ルビノ京都堀川

- 1 「学校改善支援促進事業」のまとめ
- 2 京の学力向上フォーラムの運営とシンポジウムの進行について

京の学力向上フォーラム

北部会場(綾部市中央公民館) 平成20年2月29日(金)
南部会場(文化パルク城陽) 平成20年3月 4日(火)

京の学力向上検討委員会名簿

委員会

	役 職	職 名	氏 名
大 学	座長	京都大学大学院教授	田 中 耕 治
	委員(国語担当)	京都教育大学教授	植 山 俊 宏
	委員(算数・数学担当)	同志社女子大学教授	今 井 敏 博
府教委	委員長(経理責任者)	学校教育課長	桐 村 幸 雄
	委員	乙訓教育局次長	岡 花 秀 樹
	委員(情報セキュリティ統括責任者)	学校教育課総括指導主事	伊 家 正 規
	委員	社会教育課総括社会教育主事	樹 山 静 雄
	委員	総合教育センター研修・支援部長	友 松 勝 之
保護者	PTA代表	京都府PTA協議会長	塩 尻 知 己
校長会	小学校校長代表者	亀岡市立安詳小学校長	竹 岡 敏
	中学校校長代表者	木津川市立山城中学校長	木 村 勝
指 導 主事等	小委員会委員(国語)	山城教育局指導主事	辻 村 敬 三
	小委員会委員(国語)	中丹教育局指導主事	稗 田 洋 子
	小委員会委員(国語)	丹後教育局指導主事	梅 田 一 美
	小委員会委員(国語)	総合教育センター研究主事兼指導主事	岡 田 敏 子
	小委員会委員(国語)	総合教育センター研究主事兼指導主事	岩 崎 俊 之
	小委員会委員(国語)	学校教育課指導主事	塩 谷 由美子
	小委員会委員(算数・数学)	南丹教育局指導主事	河 村 泰 宏
	小委員会委員(算数・数学)	総合教育センター研究主事兼指導主事	松 元 伸 祥
	小委員会委員(算数・数学)	府立洛北高校教諭	野 村 康 隆
	小委員会委員(算数・数学)	学校教育課指導主事	藤 川 敬 之
	小委員会委員(算数・数学)	学校教育課指導主事	本 島 知 樹

事務局

役 職 名	所 属	職 名	氏 名
事 務 局 長	京都府教育庁指導部学校教育課	参 事	川 村 智
事務局次長	京都府教育庁指導部学校教育課	総括指導主事	中 條 郁
事 務 局 員	京都府教育庁指導部学校教育課	指導主事	山 下 正 己
	京都府教育庁指導部学校教育課	指導主事	井 上 桂 一
	京都府教育庁指導部人権教育室	指導主事	竹 尾 章 彦
	京都府教育庁指導部学校教育課	指導主事	日下部 正 登
	京都府教育庁指導部学校教育課	企画主任	杉 本 学
	京都府教育庁指導部学校教育課	主 任	石 井 章 代
	京の学力向上検討委員会	非常勤職員	浜 中 悦 代
出 納 員	京都府教育庁指導部学校教育課	課長補佐兼庶務係長	立久井 聡

学校改善支援プラン

— 提 言 —

質の高い学力を求めて

平成20年1月

発行・編集 京の学力向上検討委員会

〔事務局〕

京都府教育庁指導部学校教育課

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

TEL 075-414-5833